

十間屋敷遺跡

—第11次発掘調査報告—

久留米城下町遺跡

—第30次発掘調査報告—

令和5(2023)年3月
久留米市教育委員会

十間屋敷遺跡

—第 11 次発掘調査報告—

久留米城下町遺跡

—第 30 次発掘調査報告—

令和 5 (2023) 年 3 月
久留米市教育委員会

序

久留米市は、筑紫平野の中央に位置し、陸路と水路の要衝であることから、古くから筑後地方における政治・経済・文化の中心地として発展を遂げてきました。また、それに伴い市内各所に数多くの文化財が残されています。久留米市教育委員会は、開発によって失われる先人が残した貴重な文化財を後世に伝えていくために、現状保存、あるいは発掘調査を行うことで記録保存の措置を講じています。

今回の発掘調査は、久留米城下の南東部に位置する日吉町と通町で実施しました。十間屋敷遺跡は、久留米藩家老の有馬主膳の中屋敷にあたり、溝や畝状遺構が発見されました。また、久留米城下町遺跡では、鍛冶屋の遺構が発見され、久留米城下における鉄製品の生産の実態を明らかにする貴重な資料を得ることができました。今回の発掘調査とその成果を通して、久留米の歴史と文化財保護に対する理解や普及などに貢献できれば幸いです。

末文となりましたが今回の発掘調査に際して、土地所有者の方々をはじめ、関係各位に多大なご協力をいただきました。心より御礼申し上げます。

令和5年3月31日

久留米市教育委員会

教育長 井上 謙介

例 言

1. 本書は、共同住宅建設に先立ち九電不動産株式会社の委託を受けて実施した、十間屋敷遺跡第 11 次調査・久留米城下町第 30 次調査の発掘調査報告書である。
2. 調査は久留米市教育委員会が調査主体となり、市民文化部文化財保護課の長谷川桃子が担当した。
3. 遺構実測図の作成は、長谷川と中村麻衣、山田治代、田中とし子、松尾朱美が行い、浄書は長谷川が行った。
4. 遺物の実測は、長谷川と江口里織が行い、浄書は長谷川が行った。
5. 遺構写真は Canon EOS5D Mark IV・Canon EOS6D Mark II を用いて、長谷川が撮影した。遺物写真は久留米市埋蔵文化財センターにおいて、PENTAX K-1 II を用いて長谷川が撮影した。なお、本文中の遺物番号・遺物実測図・写真図版の遺物番号は同一である。
6. 遺構配置図は、トータルステーションを用いて測量し、測量データは「遺構くん cubic」で編集・保存した。なお、個別遺構図については水糸メッシュ法（1/10）で記録した。
7. 図面の方位は座標北を示す。基準点の座標は、国土調査法第 II 座標系（世界測地系）を用いた。なお、平成 28 年の熊本地震に伴うパラメーター補正は行っていない。
8. 遺構表記の略記号は、以下の通りである。

SD—溝 SE—井戸 SK—土坑 SP—ピット SX—不明遺構・鍛冶遺構
9. 遺物観察表の凡例は、以下の通りである。
 - ・法量の単位は cm である。（ ）内の数値は復元値および残存値を示す。
 - ・色調は、『新版 標準土色帖』（日本色研事業株式会社、1997 年版）に拠るものである。
10. 出土遺物・図面等諸記録は、全て久留米市埋蔵文化財センターにおいて収蔵・保管されている。
11. 十間屋敷遺跡第 11 次調査の略記号は L K J—011、調査番号は 202106 である。

久留米城下町遺跡第 30 次調査の略記号は L K M—030、調査番号は 202109 である。
12. 久留米城下町遺跡出土の鉄滓等の整理・報告書の執筆にあたっては、松井和幸氏（元北九州市立埋蔵文化財センター次長）及び村上恭通氏（愛媛大学アジア古代産業考古学センター長）の指導を受け、検討を行った。
13. 久留米城下町遺跡出土のガラス製品については、比佐陽一郎氏（福岡市文化財活用課）の協力を得て、蛍光 X 線による元素分析を行った。
14. 近世陶磁器の分類・時期については、主に以下の文献を参考にした。また、大石昇（会計年度任用職員）及び当課職員の水原道範の教示も得た。
 - ・九州近世陶磁学会 2000 『九州近世陶磁学会 10 周年記念 九州陶磁の編年』

- ・福岡県教育委員会 2011 『矢加部町屋敷遺跡Ⅲ 福岡県柳川市矢加部所在遺跡の調査』
有明海沿岸道路大川バイパス関係埋蔵文化財調査報告 第11集
- ・九州歴史資料館 2012 『矢加部町屋敷遺跡Ⅳ 蒲船津西ノ内遺跡 蒲船津水町遺跡 福岡
県柳川市大字矢加部・蒲船津所在遺跡の調査』 有明海沿岸道路大川バイパス関係埋蔵文化
財調査報告 第12集

15. 「Ⅳ章 (3) 石炭について」の文献については、当課職員の小澤太郎の教示を得た。
16. 本文の執筆・編集は長谷川が行った。

本文目次

I. はじめに	1
1. 調査に至る経緯	1
2. 調査及び報告書作成にかかる体制	1
3. 調査の経過	2
II. 位置と環境	2
III. 十間屋敷遺跡第11次調査	6
1. 検出遺構	6
2. 出土遺物	9
3. 総括	9
IV. 久留米城下町遺跡第30次調査	11
1. 検出遺構	11
2. 出土遺物	25
3. 総括	28

挿図目次

第1図 調査地点と周辺の遺跡分布図 (1/25,000)	3
第2図 調査地点の位置と周辺地形図 (1/2,500)	3
第3図 絵図からみた調査区の位置 (縮尺任意)	5
第4図 十間屋敷遺跡第11次調査 遺構配置図 (1/150)	7
第5図 S D 7・13、トレンチ、S E 18・S K 12・16・17実測図 (1/40)	8
第6図 久留米城下町遺跡第30次調査 遺構配置図 (1/100)	12
第7図 久留米城下町遺跡第30次調査 遺構番号図 (1/100)	13
第8図 S E 11・20・34・53実測図 (1/40)	14
第9図 S K 1・3・4・13～15実測図 (1/40)	15
第10図 S K 16・17・19・28～30実測図 (1/40)	16
第11図 S K 32・35・37・39・40・42・46・48実測図 (1/40)	18
第12図 S K 49・52・54・56・58・63・64実測図 (1/40)	20
第13図 S K 70・72～77・81実測図 (1/40)	22
第14図 S P 2・50・55、S X 7実測図 (S X 7は1/40、それ以外は1/20)	24
第15図 S X 21実測図 (1/40)	26
第16図 蛍光X線分析結果	27
第17図 鉄製品・鉄滓実測図 (1/4)	27

第18図	時期別の鉄滓重量	28
第19図	久留米城下町遺跡第30次調査 主要構構変遷図(1/300)	31

目 次

第1表	十間屋敷遺跡第11次調査 出土遺物観察表	10
第2表	久留米城下町遺跡第30次調査 水洗した埋土一覽	25
第3表	出土鉄滓の重量	28
第4表	鍛冶関連遺物出土遺構一覽表	32
第5表	久留米城下町遺跡第30次調査 出土遺物観察表1	33
第6表	久留米城下町遺跡第30次調査 出土遺物観察表2	34
第7表	久留米城下町遺跡第30次調査 出土遺物観察表3	35
第8表	久留米城下町遺跡第30次調査 出土遺物観察表4	36
第9表	久留米城下町遺跡第30次調査 出土遺物観察表5	37
第10表	久留米城下町遺跡第30次調査 出土遺物観察表6	38
第11表	久留米城下町遺跡第30次調査 鍛冶関連遺物観察表1	39
第12表	久留米城下町遺跡第30次調査 鍛冶関連遺物観察表2	40

図 版 目 次

図版1 (1) 十間屋敷遺跡第11次調査 調査区東側全景(北上空から)	東区全景(西上空から)
(2) 十間屋敷遺跡第11次調査 調査区西側全景(東から)	図版5 (1) S E 11 掘削状況(北から)
図版2 (1) S D 7土層断面(南から)	(2) S E 20 土層断面(南から)
(2) S D 13土層断面(西から)	(3) S E 53 土層断面(南から)
(3) S D 13・47土層断面(北から)	(4) S K 1土層断面(南西から)
(4) トレンチ土層断面(北から)	(5) S K 3土層断面(東から)
(5) S E 18 検出状況(東から)	(6) S K 3完掘状況(北西から)
(6) S K 12土層断面(西から)	(7) S K 4完掘状況(北西から)
(7) S K 17土層断面(南西から)	(8) S K 14土層断面(南西から)
(8) 畝状遺構完掘状況(北から)	図版6 (1) S K 17完掘状況(西から)
図版3 十間屋敷遺跡第11次調査 遺物写真	(2) S K 19土層断面(南から)
図版4 (1) 久留米城下町遺跡第30次調査 西区全景(東上空から)	(3) S K 29完掘状況(北西から)
(2) 久留米城下町遺跡第30次調査	(4) S K 30土層断面(西から)
	(5) S K 30完掘状況・ S E 34掘削状況(北西から)
	(6) S K 32土層断面(東から)

- (7) S K 35・37 完掘状況(東から)
- (8) S K 39 完掘状況(南西から)
- 図版7 (1) S K 42 完掘状況(南から)
- (2) S K 44 完掘状況(南から)
- (3) S K 48 土層断面(南から)
- (4) S K 49 完掘状況(北西から)
- (5) S K 52 土層断面(南から)
- (6) S K 54 土層断面(西から)
- (7) S K 54 遺物出土状況(北から)
- (8) S K 56 土層断面(南から)
- 図版8 (1) S K 56 完掘状況(南西から)
- (2) S K 58 完掘状況(北西から)
- (3) S K 63 土層断面(南から)
- (4) S K 64 完掘状況(北から)
- (5) S K 70 土層断面(西から)
- (6) S K 72 完掘状況(東から)
- (7) S K 73 完掘状況(北から)
- (8) S K 74 完掘状況(北から)
- 図版9 (1) S K 75 完掘状況(南から)
- (2) S K 81 掘削状況(東から)
- (3) S P 2 出土状況(南から)
- (4) S P 50 出土状況(北西から)
- (5) S P 55 出土状況(北東から)
- (6) S X 7 南側土層断面(西から)
- (7) S X 7 (北西から)
- (8) S X 7 戸部分(東から)
- 図版10 (1) S X 7 完掘状況(南から)
- (2) S X 21 土層断面(南東から)
- (3) S X 21 土層断面(東から)
- (4) S X 21 土層断面(南から)
- (5) S X 21 土層断面(西から)
- (6) S X 21 土層断面(北から)
- (7) S X 21 が検出状況(南東から)
- (8) S X 21 完掘状況(南東から)

- 図版11 久留米城下町遺跡第30次調査
遺物写真1
- 図版12 久留米城下町遺跡第30次調査
遺物写真2
- 図版13 久留米城下町遺跡第30次調査
遺物写真3
- 図版14 久留米城下町遺跡第30次調査
遺物写真4
- 図版15 久留米城下町遺跡第30次調査
遺物写真5
- 図版16 久留米城下町遺跡第30次調査
遺物写真6
- 図版17 久留米城下町遺跡第30次調査
遺物写真7
- 図版18 久留米城下町遺跡第30次調査
遺物写真8
- 図版19 久留米城下町遺跡第30次調査
遺物写真9
- 図版20 久留米城下町遺跡第30次調査
遺物写真10
- 図版21 (1) S K 48 出土鉄滓・羽口・
粒状滓・鍛造剥片・石炭
- (2) S K 14 出土石炭
- (3) S K 48 出土石炭
- (4) S K 48 出土粒状滓
- (5) S K 48 出土鍛造剥片

I. はじめに

1. 調査に至る経緯

本調査は、共同住宅建設に伴う事前の発掘調査である。令和2年9月29日、土地所有者の九電不動産株式会社代表取締役平野俊明氏から久留米市日吉町28-12、-14、-15、-16、-17、-18、通町104-20、-21における「埋蔵文化財包蔵の有無」の照会が提出された。当該地は、周知の埋蔵文化財包蔵地の十間屋敷遺跡および久留米城下町遺跡であり、同年12月22日の試掘調査においても遺構が残存していたため、発掘調査が必要である旨を回答した。令和3年3月11日に発掘調査の依頼が提出され、久留米市長と土地所有者は同年4月9日、十間屋敷遺跡第10次調査・久留米城下町遺跡第30次調査の協定書と委託契約を取り交わした。

現地での発掘調査は同年4月19日に着手し、7月16日に終了した。遺物整理と報告書作成は協定書に基づいた委託契約を取り交わし、令和5年3月31日まで行った。対象面積661㎡のうち、調査面積は404.9㎡（十間屋敷遺跡265.3㎡、久留米城下町遺跡139.6㎡）である。

2. 調査及び報告書作成にかかる体制

調査委託者：九電不動産株式会社 代表取締役 平野 俊明

調査主体：久留米市教育委員会 教育長：井上 謙介

調査総括：久留米市 市民文化部 部長：竹村 政高

次 長：深堀 尚子

文化財保護課 課 長：水島 秀雄

課長補佐：久保田由美（令和3年度）、田中 健二（令和4年度）

課長補佐兼主査：白木 守、丸林 禎彦

主 査：水原 道範（令和3年度）

小澤 太郎（令和4年度）

事務主査：小澤 太郎（令和3年度）、江島 伸彦

調査担当：長谷川桃子

整理担当（会計年度任用職員）：米澤美詠子、宮崎 彩香、今村 理恵

会計年度任用職員（発掘調査作業員）

秋永 絹子、案納 哲夫、蒲池 稔、川原 初美、國武 三歳、黒岩 秀則、田中とし子、

中村 麻衣、原 博文、原口 貞子、平田 広之、堀江 俊文、松尾 朱美、溝口 輝男、

矢野 崇徳、山田 治代、横山 満浩

会計年度任用職員（出土品整理作業員）

大津山 恵津子、江口 里織、野口 晴香、野間口 靖子

3. 調査の経過

敷地の中央を東西に流れる溝の南側に建設予定の共同住宅（十間屋敷遺跡）と北側に建設予定の2棟の立体駐車場（久留米城下町遺跡）に分けて調査を行った。調査の目的は、近世の遺構の広がりを確認することにあった。令和3年4月19日、ユニットハウス・簡易水洗トイレを搬入し、調査を開始した。翌20日から21日まで十間屋敷遺跡東側部分の表土剥ぎを行い、その後遺構検出・遺構掘削・遺構測量・個別遺構写真の撮影を行った。5月10日にスカイマスターを使用し、十間屋敷遺跡東側の全景写真を撮影した。翌11日はS E 18の石組を実測し、14日は東側部分の埋め戻しと西側部分の表土剥ぎを行った。19日まで検出・遺構掘削・遺構測量を行い、西側部分の全景写真を撮影した。5月22日に西側部分の埋め戻しを行い、十間屋敷遺跡の調査を終了した。同日、久留米城下町遺跡の西区の表土剥ぎを行った。25日から順次遺構検出・遺構掘削・遺構測量・遺構実測図作成を行い、6月17日にスカイマスターを使用して、西区の全景撮影を行った。23日まで、S X 21やその他の図面作成や遺構測量・遺構写真撮影などの補足調査を行い、24日に西区の埋め戻しと東区の表土剥ぎを行った。その後、東区の検出・遺構掘削・遺構測量・個別遺構写真・個別遺構実測を行い、7月13日にスカイマスターを使用して、東区的全景写真を撮影した。15日に埋め戻しを、16日に器材の撤収を行い、全ての調査を終了した。

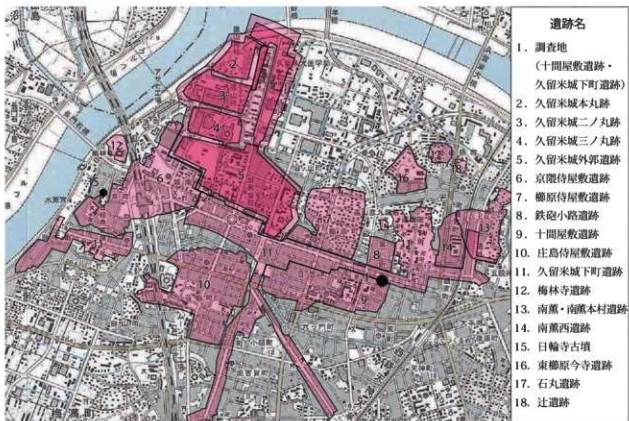
II. 位置と環境

久留米市は、筑後川の中・下流域にあたり、筑紫平野の中央に位置する。この中央部は、背振山地から派生する丘陵と耳納山地から派生する段丘が東西両側から突出する部分で、筑後川を挟んで地峡部を成す。この地峡部の南東側の段丘頂部に久留米城が位置する。

現在の久留米市中心市街地の街並みは、久留米城下の町割りを踏襲している。その町割りの起源となったのは、おおそ室町時代と考えられる。それ以前の旧石器時代から古代までの人々の足跡は、久留米城と城下町の大規模な造成・削平によって判然としない。

周辺の遺跡で発見された最も古い遺物は、久留米城外郭遺跡第19次調査で出土した旧石器時代のナイフ形石器である。弥生時代になると、東櫛原今寺遺跡、石丸遺跡、辻遺跡などの低位段丘上に竪穴建物や甕棺墓群が営まれている。また、久留米城外郭遺跡や京隈待屋敷遺跡においても、竪穴建物や甕棺墓が確認されている。古墳時代には、低位段丘の西端に日輪寺古墳が位置している。5世紀末から6世紀初頭に築造された前方後円墳で、横穴式石室の石障には線刻による装飾が施されている。奈良時代、当地は御井部節原郷に比定されており、その中心的な集落と考えられる南薫西遺跡では、掘立柱建物群や墨書土器が確認されている。城下町造成以前の中世では、京隈待屋敷遺跡で溝等が確認されている。

戦国時代、高良山勢力の出城として久留米城が造営された。高良山座主の弟・麟圭が久留米城を拠点とし、天正11年（1583）頃には龍造寺方と結んで座主良寛や大友方と対峙したとされる。



第1図 調査地点と周辺の遺跡分布図 (1/25,000)



第2図 調査地点の位置と周辺地形図 (1/2,500)

II. 位置と環境

天正15年(1587)には、豊臣秀吉の九州国割に伴って小早川秀包が久留米城に入城する。秀包はキリシタン教会を建設した。久留米城下町遺跡第2次調査(両替町遺跡)で検出された掘立柱建物はその教会跡と考えられている。また、久留米城の東には城下町が広がり、呉服町・紺屋町・魚屋町などの町がこの頃からあったとみられる。

慶長6年(1601)に田中吉政が筑後国に入国した。吉政は柳河城を居城とし、久留米城には二男主膳正吉信を配置したとされる。吉政は、柳河城と久留米城を結ぶ、のちに柳川往還と呼ばれる新道を整備した。

田中家は2代忠政が無嫡子のまま死去し、改易となったため、元和7年(1621)に有馬豊氏が丹波福知山より転封となり、久留米城に入城した。その後、城郭・侍屋敷・町屋の建設が進められた。城下には4つの侍屋敷が造成された。そのうちのひとつ、十間屋敷は通町筋の南側に位置する。「寛永十三年西久留米の内十間屋敷に大神宮建立」(『石原家記』)とあること、正保3年(1646)に順光寺が建立、翌4年(1647)に祇園社御旅所が寄進されていることから、寛永13年(1636)から十間屋敷の建設が始まり、正保4年(1647)に完成したとみられる(古賀2018)。城下町の東西を結ぶ道に沿って町屋が並ぶ長町(のちの通町)は、有馬氏入城前に四丁目まで形成されていた。寛永元年(1624)には五丁目より東に町が建ち始め、正保3年(1646)に十丁目まで町屋が建設された。延享3年(1746)には通外町が建設された。

十間屋敷第11次調査地は、久留米藩家老有馬主膳の中屋敷の北部にあたる。文久3年(1863)以降、中屋敷の南側約15,000㎡には江戸から帰国した藩士のための侍屋敷20軒が新設されたが、調査地は中屋敷として存続している。

久留米城下町遺跡第30次調査地は、「延宝八年絵図」では長町六丁目、「伝元禄十四年製之古図」では長町六丁目、「天保年間絵図」では通町四丁目、「明治五年通町絵図」では長町(通町)六丁目にあたる。長町(通町)六丁目は、寛永元年(1624)に建設が始まり、寛永18年(1641)には成立した町である(古賀2018)。「明治五年絵図」の中で調査地がどこにあたるのかについては断定できないが、内田與平氏が鋳物・金物商を営んでいたことが指摘されている(古賀2018)。なお、調査地の約50m東には第27次調査地が所在する。第27次調査では、18世紀前半から幕末にかけての鉄滓約500kgや鉄製品が出土し、鍛錬鍛冶を行ったとされている。

【参考文献】

- 古賀正美 2018 『久留米城とその城下町』 海鳥社
江頭俊介 2019 『久留米城下町遺跡第27次調査報告』 久留米市文化財調査報告書第407集
鈴木端穂・江頭俊介 2021 「第5章 久留米城下町遺跡第27次調査(鉄滓分析編)」『久留米市埋蔵文化財調査集報二十一』 久留米市文化財調査報告書第429集



延寶八年久留米市街図 (1680年)



伝元禄十四年製之古図 (1701年力)



天保年間久留米城下図 (1830～1844年)



明治二年旧郭図 (1869年)



明治五年通町絵図 (1872年)



明治二十五年久留米市明細図 (1892年)

○ は、調査地の位置を表す

※明治五年通町絵図での、調査地の位置は不明瞭である

第3図 絵図からみた調査区の位置 (縮尺任意)

Ⅲ. 十間屋敷遺跡第 11 次調査

1. 検出遺構

近世の溝、井戸、土坑、時期不明の畝状遺構を検出した。

溝

SD 7 (第 5 図、図版 2)

調査区中央で検出した溝である。軸は N-20°-E である。長さは 10.9 m 以上で、北側は調査区外に延びる。上端幅 0.7 m、深さ 0.1 m を測る。断面は U 字形である。19 世紀代に属する。

SD 13 (第 5 図、図版 2)

調査区中央で検出した溝である。北から南へ 12 m のところで直角に東へ曲がる。長さは 19 m 以上で、北側は調査区外に延び、東側は攪乱によって破壊されていた。上端幅 1.1 m、深さ 0.5 m を測る。上層 (1・2 層) と下層 (3・4 層) に大別できる。上層は 17 世紀から幕末までの近世陶磁器などが出土しているが、下層は 17 世紀から 18 世紀中頃までの近世陶磁器などの出土に限られることから、18 世紀中頃に一度埋没し、最終的に幕末に廃絶したと推測される。

SD 47 (第 5 図、図版 2)

調査区中央で検出した溝である。当初 SD 13 と同一遺構として掘削したが、トレンチの土層の観察の結果、別遺構であることが分かった。SD 13 に後出し、西側の畝状遺構に先行する。長さは 8.7 m である。上端幅 0.3 m、深さ 0.4 m を測る。断面は U 字形である。19 世紀代に属する。

井戸

SE 18 (第 5 図、図版 2)

調査区中央部で検出した円形の井戸である。SD 13・SK 12・16・畝状遺構に後出する。直径 1.2 m を測る。埋め戻し時に重機による断ち割りを行い、深さ 3.7 m で底面が確認できた。上面から 40 cm の深さでテラス部分があり、石列が一段認められた。なお、南東部分は石列がみられない。遺物は、18 世紀から幕末にかけての近世陶磁器が出土しているが、一部コバルト呉須の型紙摺りの磁器も出土していることから、使用年代の上限は 18 世紀代、廃絶は明治期と推定される。

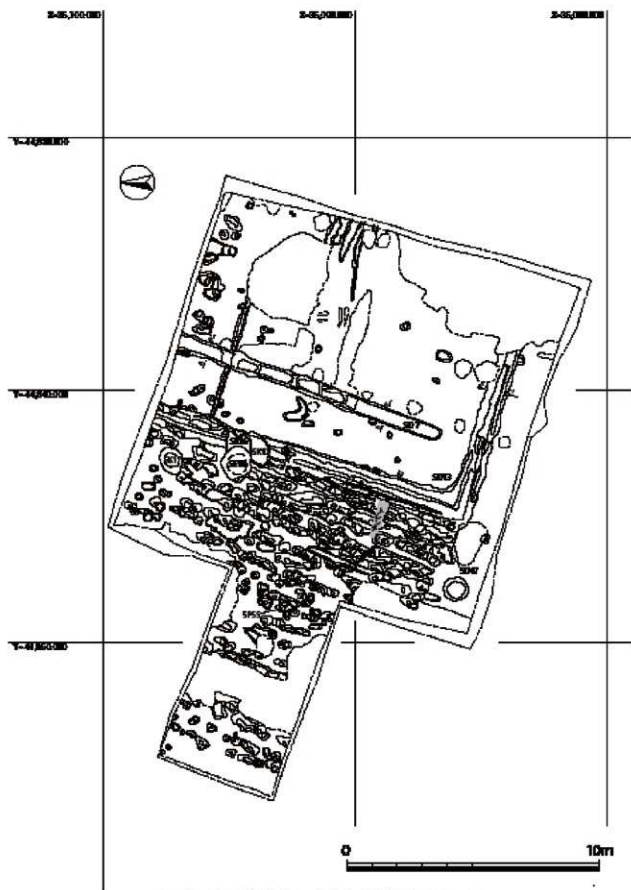
土坑

SK 12 (第 5 図、図版 2)

調査区西部で検出した楕円形の土坑である。SD 13 に後出し、SE 18・SK 16 に先行する。残存部分の規模は、長軸 0.9 m、短軸 0.8 m、深さ 0.3 m を測る。19 世紀前半に属する。

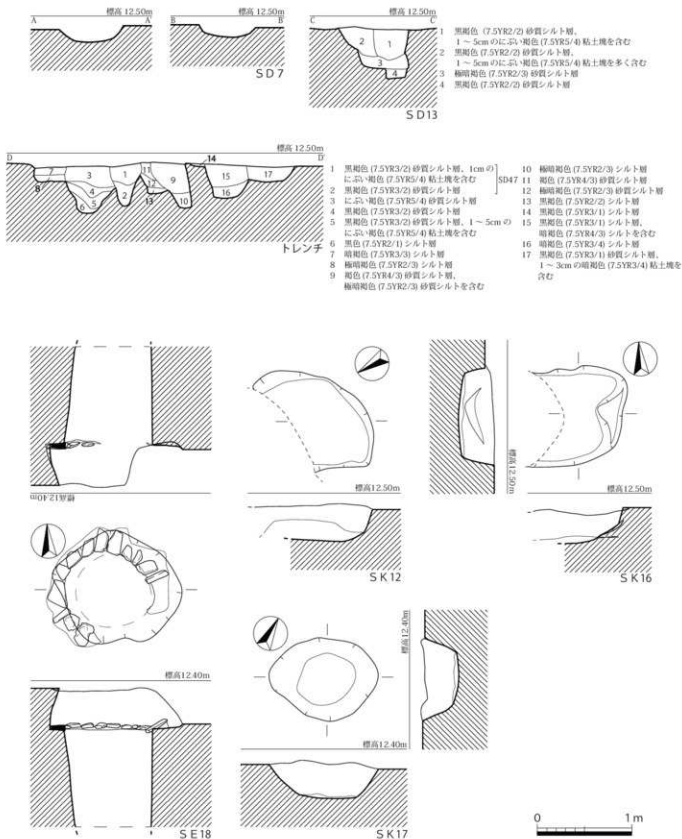
SK 16 (第 5 図、図版 2)

調査区西部で検出された楕円形の土坑である。SD 13・SK 12 に後出し、SE 18 に先行する。残存部分の規模は、長軸 1.0 m、短軸 0.6 m、深さ 0.4 m を測る。19 世紀代に属する。



第4図 十間屋敷遺跡第11次調査 遺構配置図 (1/150)

Ⅲ. 十間屋敷遺跡第11次調査



第5図 SD 7・13、トレンチ、SE 18・SK 12・16・17 実測図 (1/40)

SK 17 (第5図、図版2)

調査区西部で検出された楕円形の土坑である。畝状遺構に先行する。遺構の規模は、長軸 1.1 m、短軸 0.8 m、深さ 0.3 m を測る。近世陶磁器や近代磁器の細片が出土しており、近代に属する。

畝状遺構 (図版2)

調査区西部の幅 10 m にわたって畝状遺構が確認された。一条の幅は 40 cm 程度で、遺構によって長さは 40 cm ～ 7 m と異なる。埋土は、①暗褐色砂質シルト＋黒色砂質シルト②褐色砂質シルト混じりの黒色砂質シルト③黒色砂質シルト混じりの褐色砂質シルトの3つに大別できたが、輪郭は明瞭ではなかったため、畝の長さを正しく捉えられなかった可能性がある。深さは 10 ～ 50 cm で、掘鉢状にすぼまる遺構もあった。遺構には近世・近代陶磁器の細片がごくわずかに含まれたが、正確な時期は不明である。なお、SP 55 からコバルト呉須を用いた型紙摺りの磁器が出土している。

2. 出土遺物

バンコンテナー2箱分の遺物が出土した。分量などの詳細については、第1表を参照願いたい。

3. 総括

今回の調査では、溝4条と井戸1基、土坑3基、時期不明の畝状遺構を確認した。時期は19世紀から近代が主体であり、全体的に近世の遺構は希薄である。SD 13には17世紀代の遺物が含まれているが、使用開始の下限は、下層が埋没した18世紀中頃と考えられるだろう。その後SD 13は幕末で廃絶する。第2次調査の成果と絵図との照合によって、18世紀前半に有馬主膳中屋敷が成立したとされており^(註1)、SD 13は中屋敷に伴う溝と考えられる。

有馬主膳中屋敷にあたる場所では、十間屋敷遺跡第2・3・6・7次調査が行われた。これまでの調査でも、近世の遺構は希薄であることが分かっている。第3・6・7次調査は中屋敷の南部にあたり、裏庭部分に相当する可能性や空閑地としての利用が指摘されていた^(註2)。しかし、北部にあたる今回の調査地でも、近世の遺構が希薄であることには変わらず、中屋敷全体が空閑地として広がっていた可能性が指摘できる。

調査地西側に広がる畝状遺構にはほとんど遺物が含まれていない。ただし、SP 55に含まれた磁器の細片は、近代の所産であることを示すものではあるが、畝状遺構全体が近代の所産であると断定できない。なお、「明治25年久留米市明細図」では、調査地周辺は畑地となっている。

註1 水原道範 2007 『十間屋敷遺跡—第2次調査—』久留米市文化財調査報告書第242集

註2 白木守 2007 『十間屋敷遺跡—第3次調査—』久留米市文化財調査報告書第255集

江頭俊介 2017 『十間屋敷遺跡—第7次調査報告—』久留米市文化財調査報告書第389集

Ⅲ、十間屋敷道跡第11次調査

第1表 十間屋敷道跡第11次調査 出土遺物観察表

遺物 番号	調査 番号	遺構	材質	形状	寸法			発見 時期 西暦	形状・状態		見込み	遺座、基台内径	備考	登録 番号
					口徑 (最)	底径 (最)	高さ (最)		外周	内周				
1	Ⅸ版3	SD7	磁器	段重	-	-	(2.0)	色絵	草			19c	202109 000014	
2	Ⅸ版3	SD13	陶器	皿	(12.4)	-	(3.0)	灰					202108 000017	
3	Ⅸ版3	SD13	磁器	碗	(8.0)	-	(3.0)	染付	圓縁・東屋・山水				202104 000028	
4	Ⅸ版3	SD13	磁器	碗	(11.2)	-	(5.0)	染付	二重圓縁・草花				202108 000013	
5	Ⅸ版3	SD13	磁器	碗	(12.0)	-	(4.7)	染付	二重圓縁・草花	圓縁			202104 000009	
6	Ⅸ版3	SD13	磁器	碗	(8.2)	-	(4.0)	染付	圓縁・草	四方弁			202109 000016	
7	Ⅸ版3	SD13	磁器	碗	(9.2)	-	(4.8)	染付	柳・梅花	四方弁		二重圓縁	202104 000018	
8	Ⅸ版3	SD13	磁器	碗	-	(6.0)	(4.1)	白磁					202104 000014	
9	Ⅸ版3	SD13	磁器	蓋	(6.4)	(3.4)	4.1	染付	岩				202108 000012	
10	Ⅸ版3	SD13	陶器	行平蓋	(14.2)	-	(2.7)	褐	回転ナデ・飛び蓋	回転ナデ			202104 000018	
11	Ⅸ版3	SD13	陶器	漆鉢	-	-	(6.0)	鉄	ナデ	楕円・ナデ			202109 000011	
12	Ⅸ版3	SD13	磁器	碗	-	-	(3.0)	染付	二重圓縁・柳				202104 000019	
13	Ⅸ版3	SD13	磁器	碗	-	-	(3.3)	染付	草花				202104 000021	
14	Ⅸ版3	SD13	磁器	皿	-	(2.7)	(1.6)	染付			花卉	砂粒付着	202104 000022	
15	Ⅸ版3	SD13	磁器	皿	-	(9.0)	(2.2)	染付	圓縁		草	変形字・ハノ履	202104 000027	
16	Ⅸ版3	SD13	磁器	唾壺	-	3.0	(3.2)	白磁					202104 000023	
17	Ⅸ版3	SD13	陶器	碗	(11.0)	-	(4.4)	灰					202109 000032	
18	Ⅸ版3	SD13	陶器	碗	-	5.3	(3.9)	灰					202104 000033	
19	Ⅸ版3	SD13	陶器	皿	-	-	(1.6)	灰					202104 000034	
20	Ⅸ版3	SD13	陶器	皿	-	5.2	(3.1)	灰		靴ノ目輪刺ぎ	露筋		202104 000035	
21	Ⅸ版3	SD13	陶器	鉢	(13.6)	(8.8)	7.1	褐					202104 000036	
22	Ⅸ版3	SD13	土師器	碓	-	-	(5.4)	糟	ナデ	ナデ			202108 000037	
23	Ⅸ版3	SD47	磁器	碗	-	4.0	(1.9)	染付	水梨			二重圓縁	202104 000054	
24	Ⅸ版3	SE18	磁器	碗	-	-	(3.8)	染付	朝引き松		羽波		202104 000041	
25	Ⅸ版3	SE18	磁器	皿	-	(8.0)	(2.3)	白磁	菊花(型押)	ハノ履	靴ノ目型高台	19c後半	202104 000044	
26	Ⅸ版3	SE18	磁器	内皿	-	-	3.4	染付	朝霧草	草		雷文	202104 000043	
27	Ⅸ版3	SE18	磁器	小皿	(9.2)	5.1	2.5	染付	山・花				202104 000051	
28	Ⅸ版3	SE18	磁器	皿	-	(10.4)	3.5	染付	圓縁	弧状地	松・圓縁	圓縁・「化年」	19c	202104 000052
29	Ⅸ版3	SE18	磁器	不明	-	-	(1.8)	染付	草花				202104 000042	
30	Ⅸ版3	SE18	陶器	蓋	5.7	4.2	(2.1)	透明・白	梅	露筋			202104 000044	
31	Ⅸ版3	SK12	磁器	碗	-	-	(3.5)	染付	舟輪	二重圓縁			202104 000003	
32	Ⅸ版3	SK12	磁器	碗	-	-	(2.2)	染付	山水				202108 000004	
33	Ⅸ版3	SK12	磁器	遺物	(6.2)	-	(1.6)	染付	草				202104 000002	
34	Ⅸ版3	SK12	磁器	香炉	-	(2.2)	染付	唐漆文					18c後半	
35	Ⅸ版3	SK16	陶器	蓋	-	-	(3.5)	褐	飛び蓋	ナデ			202104 000044	
36	Ⅸ版3	SP55	磁器	碗	-	-	(3.3)	染付	草花				202104 000057	

IV. 久留米城下町遺跡第30次調査

1. 検出遺構

近世の井戸4基、土坑48基、鍛冶炉2基、ピット多数を検出した。なお、鍛冶に関連すると考えられた遺構の埋土は、一部もしくは全量を持ち帰り、水洗している。詳細は第2表を参照されたい。

井戸

SE 11 (第8図、図版5)

西区で検出された素掘りの井戸である。SK 4・SX 7に先行する。直径1.0 m、1.52 m以上を測る。深さ1.3 mを測る。17世紀前半に属する。

SE 20 (第8図、図版5)

西区で検出された素掘りの井戸である。SK 3に先行し、SK 40・SX 21に後出する。直径1.0 m、深さ1.48 m以上を測る。18世紀中頃に属する。

SE 34 (第8図、図版6)

西区で検出された素掘りの井戸である。SK 30に先行するとみられるが、SK 30と一体の遺構である可能性もある。直径0.8 m、深さ1.0 m以上を測る。18世紀前半に属する。

SE 53 (第8図、図版5)

東区で検出された素掘りの井戸である。SK 54に先行する。直径1.4 m、深さ1.5 m以上を測る。2層と8層の間に地山が残っており、幅20cm程度のテラス状を呈していた。18世紀後半に属する。

土坑

SK 1 (第9図、図版5)

西区で検出された楕円形の土坑である。SK 13に後出する。長軸1.1 m、短軸0.8 m、深さ0.2 mを測る。18世紀後半に属する。

SK 3 (第9図、図版5)

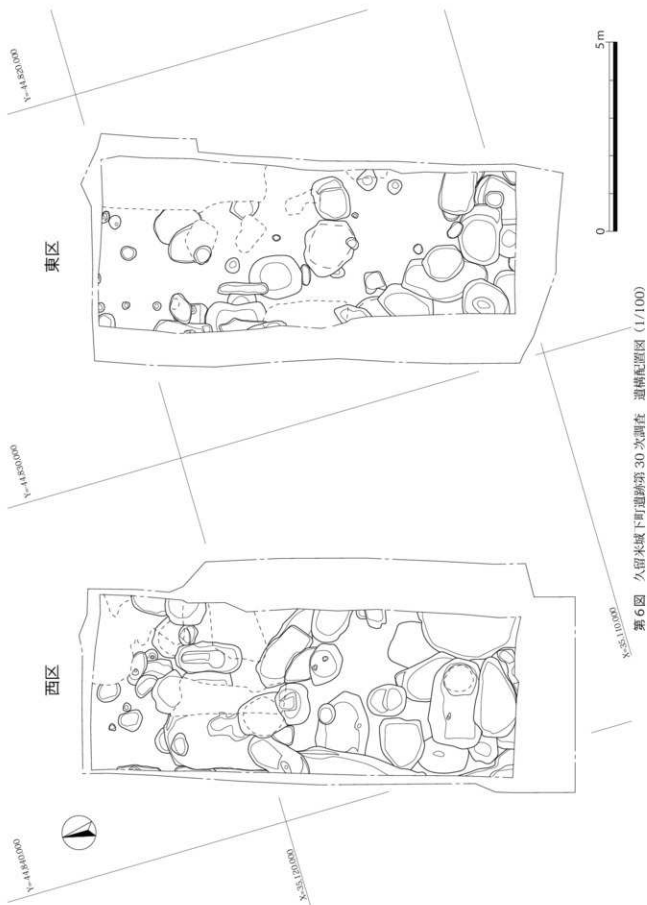
西区で検出された楕円形の土坑である。SE 20に後出する。長軸1.1 m、短軸0.8 m、深さ0.8 mを測る。出土遺物は染付碗の細片や鉄滓に限られるが、先行するSE 20が18世紀中頃に属するため、18世紀中頃以降に属する。

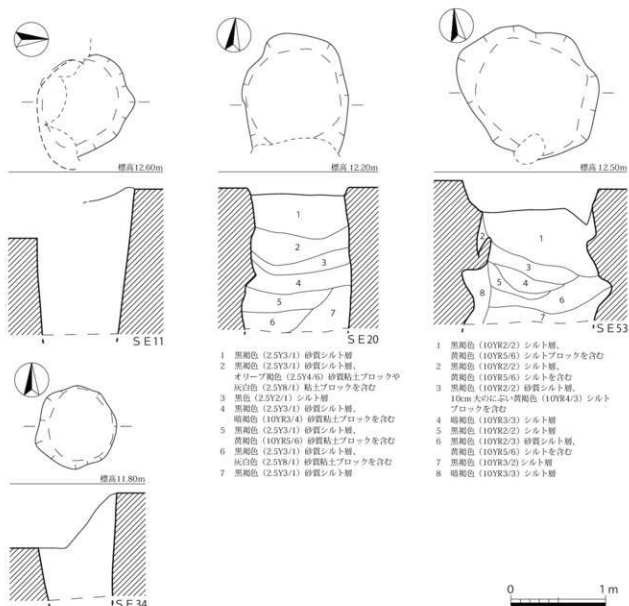
SK 4 (第9図、図版5)

西区で検出された円形の土坑である。SE 11・SK 16に後出する。遺構の大半が東へと伸びるため、全体の規模は不明であるが、残存部分の長軸1.0 m、短軸0.6 m、深さ0.7 mを測る。18世紀後半に属する。

SK 13 (第9図)

西区で検出された楕円形の土坑である。SK 1に先行し、SK 14に後出する。長軸0.8 m、短軸0.7 m、深さ0.1 mを測る。出土遺物から遺構の時期は分からなかったが、先行するSK 14が





第8図 SE 11・20・34・53実測図 (1/40)

18 世紀前半、後出する SK 1 が 18 世紀後半に属するため、18 世紀前半から後半の間に属する。

SK 14 (第9図、図版 5)

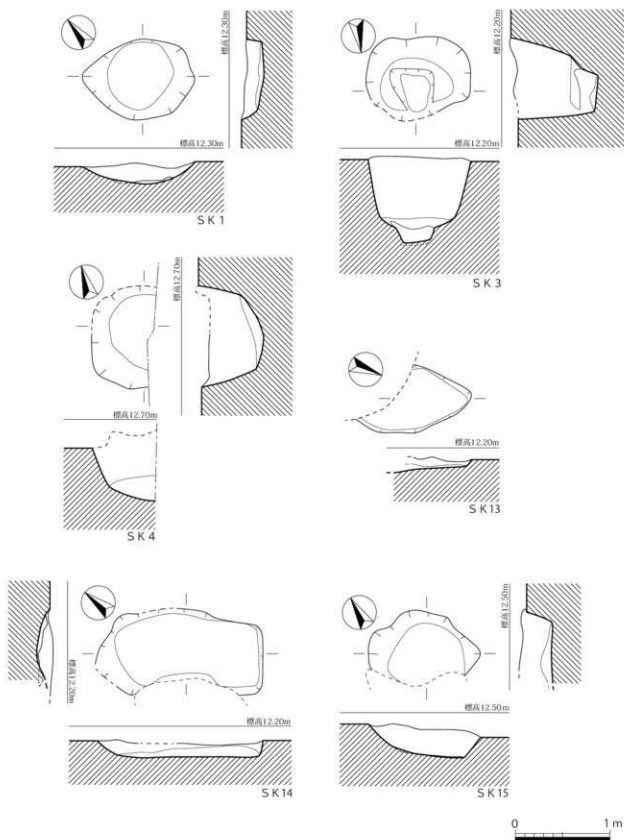
西区で検出された楕円形の土坑である。SK 13 に先行し、SK 18 に後出する。長軸 1.7 m、短軸 0.7 m、深さ 0.1 m を測る。石炭が出土しており、埋土の一部である 990g を洗浄し、そのうち石炭が 85.2 g 確認できた。18 世紀前半に属する。

SK 15 (第9図)

西区で検出された円形の土坑である。SP 23・24 に後出するが、攪乱によって南側は破壊されていた。残存部分の規模は、長軸 1.1 m、短軸 0.7 m、深さ 0.2 m を測る。18 世紀前半に属する。

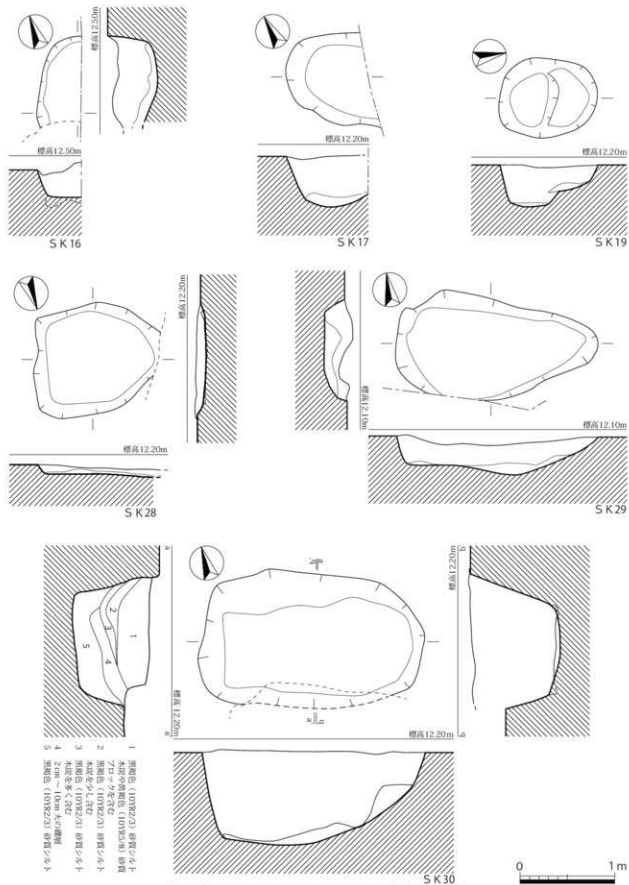
SK 16 (第10図)

西区で検出された土坑である。SK 4 に先行する。SK 4 に南側が破壊され、遺構の東部分は調



第9図 SK 1・3・4・13～15 尖測図 (1/40)

IV. 久留米城下町道路第 30 次調査



第10図 S K 16・17・19・28～30実測図 (1/40)

査区外へ広がるため、全体の規模や形状は不明である。残存部分の規模は、長軸 0.9 m、短軸 0.4 m、深さ 0.3 mを測る。18 世紀前半に属する。

S K 17 (第 10 図、図版 6)

西区で検出した楕円形の土坑である。S K 18 に後出する。遺構は調査区の東へと広がるため、全体の規模は不明であるが、長軸 0.8 m、短軸 0.9 m、深さ 0.5 mを測る。18 世紀前半に属する。

S K 19 (第 10 図、図版 6)

西区で検出した楕円形の土坑である。S K 39 に後出する。長軸 1.0 m、短軸 0.8 m、深さ 0.4 mをはかる。北側に 1 段のステップを有する。18 世紀前半に属する。

S K 28 (第 10 図)

西区で検出した楕円形の土坑である。S K 46 に先行し、S K 37 に後出する。長軸 1.2 m、短軸 1.1 m、深さ 0.1 mを測る。18 世紀前半に属する。

S K 29 (第 10 図、図版 6)

西区で検出した楕円形の土坑である。検出時、S K 30・35・36・41・42 に後出すると考えていたが、S K 30 には先行することが遺物整理の結果判明した。長軸 2.1 m、短軸 1.0 m、深さ 0.3 mを測る。18 世紀中頃に属する。

S K 30 (第 10 図、図版 6)

西区で検出した隅丸方形の土坑である。S K 29 に先行し、S E 34・S K 35～37・39・42 に後出する。ただし、S E 34 と同一遺構である可能性もある。長軸 2.3 m、短軸 1.4 m、深さ 0.9 mを測る。底面は、西から 1 m 付近までは水平であるが、東へ向かって上がる。揃いの磁器碗や皿の他、とんぼ玉やガラス製品が出土している。18 世紀後半に属する。

S K 32 (第 11 図、図版 6)

西区で検出した楕円形の土坑である。S P 27・46 に先行する。長軸 2.0 m、短軸 1.3 m、深さ 0.6 mを測る。東側に 1 段のステップを有する。鉄滓が大量に出土している。17 世紀後半に属する。

S K 35 (第 11 図、図版 6)

西区で検出した円形の土坑である。S K 29・30 に先行し、S K 36・37 に後出する。長軸 0.7 m、短軸 0.7 m、深さ 0.2 mを測る。出土遺物の時期は明らかではないが、先行する S K 37 が 18 世紀前半、後出する S K 39 が 18 世紀中頃に属するため、18 世紀前半から中頃に属すると推測される。

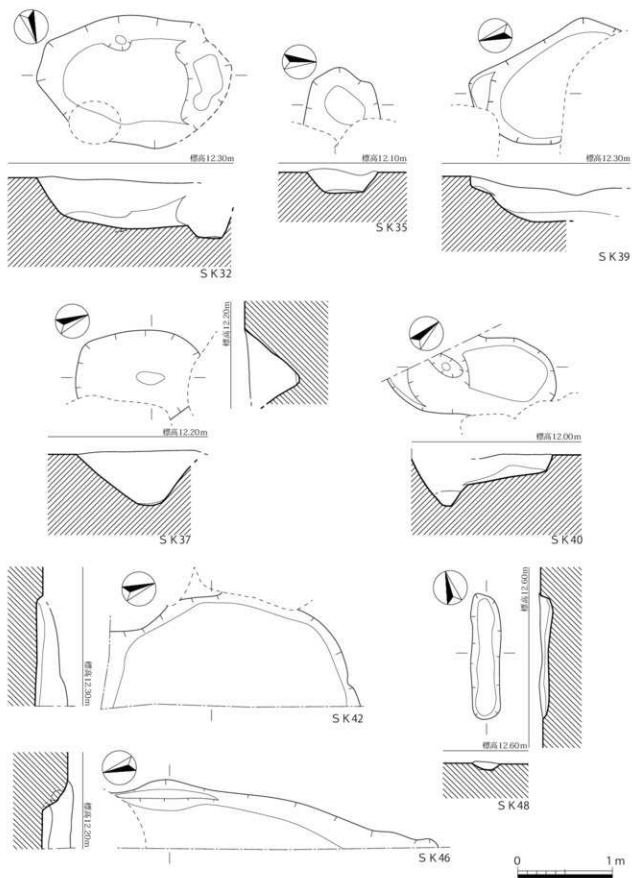
S K 37 (第 11 図、図版 6)

西区で検出した楕円形の土坑であり、掘鉢状の断面をしている。S K 28・30・35 に先行する。長軸 1.2 m、短軸 0.7 m、深さ 0.5 mを測る。18 世紀前半に属する。

S K 39 (第 11 図、図版 6)

西区で検出した楕円形の土坑である。S K 19・30 に先行し、S K 42 に後出すると考えていたが、S K 42 には先行することが分かった。長軸 1 m、短軸 0.9 m、深さ 0.3 mを測る。北側に一段のステップを有する。18 世紀前半に属する。

IV. 久留米城下町道跡第 30 次調査



第 11 図 S K 32・35・37・39・40・42・46・48 実測図 (1/40)

S K 40 (第11図)

西区で検出した楕円形の土坑である。S E 20・S P 38に先行し、S K 46・S X 21に後出する。長軸1.4 m、短軸0.8 m、深さ0.5 mを測る。出土遺物の時期は不明だが、先行するS K 46と後出するS E 20の時期がともに18世紀中頃であることから、S K 40も18世紀中頃に属する。

S K 42 (第11図、図版7)

西区で検出した円形の土坑である。当初S K 29・30・39に先行し、S K 44に後出すると考えていたが、遺物整理の結果、S K 39に先行することが分かった。遺構は調査区の東および南へと広がるため、規模や形状は不明確である。残存部分の長軸2.5 m、短軸1.1 m、深さ0.3 mを測る。18世紀後半に属する。

S K 44 (図版7)

西区で検出した隅丸方形の土坑である。当初S K 39・42に先行すると考えていたが、遺物整理の結果、S K 39には後出することが分かった。残存部分の長軸1.2 m、短軸1.2 mを測る。調査中、下端の測量を先念しており、正確な深さは不明である。18世紀中頃に属する。

S K 46 (第11図)

西区で検出した土坑である。S K 46に先行し、S K 28・32に後出する。遺構は調査区の西へと広がるため、規模や形状は不明確である。残存部分の長軸3.1 m、短軸0.7 m、深さ0.3 mを測る。18世紀中頃に属する。

S K 48 (第11図、図版7)

東区で検出した南北方向に長い楕円形の土坑である。S K 52に後出する。長軸1.2 m、短軸0.3 m、深さ0.1 mを測る。埋土中に石炭が多量に観察されたため、埋土を水洗洗浄したところ、石炭や木炭、精錬鍛冶滓、羽口、粒状滓、鍛造剥片が出土した。陶磁器類の出土はなく、時期は不明である。先行するS K 52の時期が18世紀後半であるため、18世紀後半以降に属する。

S K 49 (第12図、図版7)

東区で検出した楕円形の土坑である。S K 56に後出する。南側を攪乱によって破壊されていたため、全体の規模や形状は不明確である。残存部分は、長軸0.9 m、短軸0.5 m、深さ0.1 mを測る。18世紀後半に属する。

S K 52 (第12図、図版7)

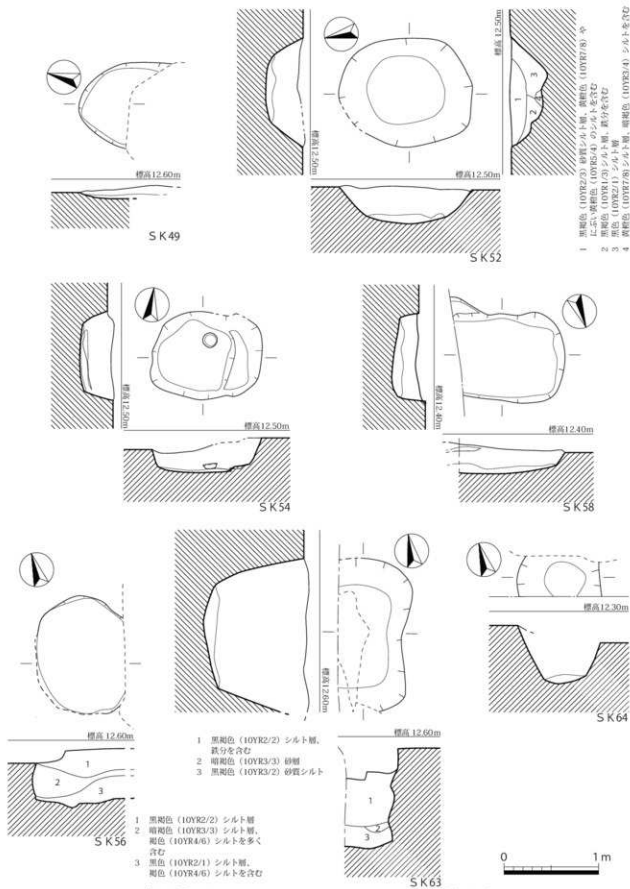
東区で検出した円形の土坑である。S P 69に先行し、S K 48に後出する。長軸1.4 m、短軸1.1 m、深さ0.4 mを測る。18世紀後半に属する。

S K 54 (第12図、図版7)

東区で検出した楕円形の土坑である。長軸1.1 m、短軸0.9 m、深さ0.3 mを測る。東側に一段のステップを有する。遺構の底面で白磁の皿が出土した。18世紀前半に属する。

S K 56 (第12図、図版7・8)

東区で検出した円形の土坑である。S K 49に先行する。遺構の東側は攪乱によって破壊されて



第 12 図 SK 49・52・54・56・58・63・64 実測図 (1/40)

いた。残存部分の長軸 1.1 m、短軸 0.8 m、深さ 0.6 m を測る。17 世紀前半に属する。

S K 58 (第 12 図、図版 8)

東区で検出した楕円形の土坑である。S K 70・74 に後出する。遺構の東側は調査区外へと広がる。長軸 1.1 m、短軸 0.8 m、深さ 0.6 m を測る。19 世紀代に属する。

S K 63 (第 12 図、図版 8)

東区で検出した隅丸方形の土坑である。S K 60・62 に先行する。遺構の西側は調査区外に広がる。長軸 1.6 m、短軸 0.6 m、深さ 1.0 m を測る。17 世紀後半に属する。

S K 64 (第 12 図、図版 8)

東区で検出した円形の土坑である。S K 70・74 に先行し、S P 81 に後出する。遺構の南側は調査区外に広がる。長軸 0.8 m、0.4 m、0.6 m を測る。17 世紀代に属する。

S K 70 (第 13 図、図版 8)

東区で検出した楕円形の遺構である。当初 S K 58・S P 65 に先行し、S K 64・74・77 に後出すると考えていたが、遺物整理の結果、S K 77 には先行することが分かった。長軸 1.6 m、短軸 1.1 m、深さ 0.4 m を測る。東側に 1 段のステップを有する。18 世紀後半に属する。

S K 72 (第 13 図、図版 8)

東区で検出した楕円形の遺構である。S K 77 に先行し、S K 78・81 に後出する。遺構の西側は調査区外に広がる。長軸 1.4 m、短軸 0.8 m、深さ 0.4 m を測る。18 世紀後半に属する。

S K 73 (第 13 図、図版 8)

東区で検出した円形の遺構である。S K 77 に後出する。長軸 1.0 m、短軸 0.9 m、深さ 0.2 m を測る。19 世紀前半に属する。

S K 74 (第 13 図、図版 8)

東区で検出した不整形の遺構である。S K 58・50 に先行し、S K 64 に後出する。遺構の南側は調査区外へ広がる。長軸 1.1 m、短軸 1.0 m、深さ 0.4 m を測る。18 世紀後半に属する。

S K 75 (第 13 図、図版 9)

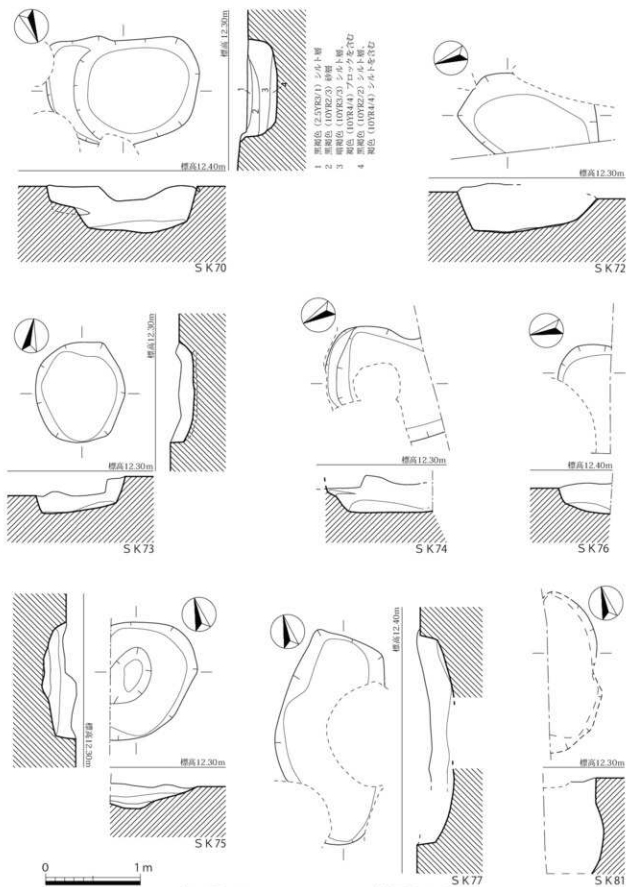
東区で検出した楕円形の遺構である。当初 S K 76・77・78 に後出すると考えていたが、S K 76・77 には先行することが遺物整理の結果分かった。遺構の西側は調査区外へ広がる。長軸 1.2 m、短軸 0.9 m、深さ 0.2 m を測る。18 世紀後半に属する。

S K 76 (第 13 図)

東区で検出した楕円形の遺構である。当初 S K 75 に先行し、S P 82 に後出すると考えていたが、遺物整理の結果 S K 75 に後出することが分かった。遺構の南側および西側は調査区外へ広がる。長軸 1.1 m、短軸 0.5 m、深さ 0.3 m を測る。19 世紀代に属する。

S K 77 (第 13 図)

東区で検出した楕円形の遺構である。当初 S K 70・73・75 に先行し、S K 72・78 に後出すると考えていたが、遺物整理の結果 S K 70・75 に後出することが分かった。長軸 2.2 m、短軸



第 13 図 SK 70・72～77・81 実測図 (1/40)

1.0 m、深さ 0.2 m を測る。19 世紀代に属する。

S K 81 (第 13 図、図版 9)

東区で検出した楕円形の遺構である。S K 72・S P 80 に先行する。遺構の西側は調査区外へと広がるため、全体の形状や規模は不明である。調査区壁際で検出されたことや、ピンポールで深さを確認したところ、さらに深くなりそうであったため、安全上深さ 1.0 m で人力での掘削を止めている。井戸であった可能性もある。長軸 1.7 m、短軸 0.5 m、深さ 1.0 m 以上を測る。18 世紀前半に属する。

ピット

S P 2 (第 14 図、図版 9)

西区で検出したピットである。S X 21 に後出する。長軸 0.5 m、短軸 0.4 m、深さ 0.3 m を測る。ピット内部には、椀瓦の上に伏せられた雲助徳利が確認された。この遺物の出土状況から、胞衣を埋納した遺構ではないかと推測される。18 世紀中頃以降に属する。

S P 50 (第 14 図、図版 9)

東区で検出したピットである。長軸 0.4 m、短軸 0.4 m、深さ 0.2 m を測る。ピットの底部に石材が 2 点据えられ、建物の基礎ではないかと推測される。S P 50 の南側には、同じく石材が据えられた S P 55 があり、これらが建物を構成するピットである可能性がある。建物を構成するピットとすると、S P 50・55 の西側および南北方向の軸線上に同様のピットは確認されなかったため、建物は東側に展開するものと考えられる。しかし、東側は攪乱によって破壊されているため、規模については不明である。S P 50 と S P 55 間は 1.9 m を測る。時期は不明である。

S P 55 (第 14 図、図版 9)

東区で検出したピットである。長軸 0.4 m、短軸 0.3 m、深さ 0.2 m を測る。ピットの底部に 3 つの石材が据えられており、建物の基礎ではないかと推測される。S P 50 との関係は先述のとおりである。時期は不明である。

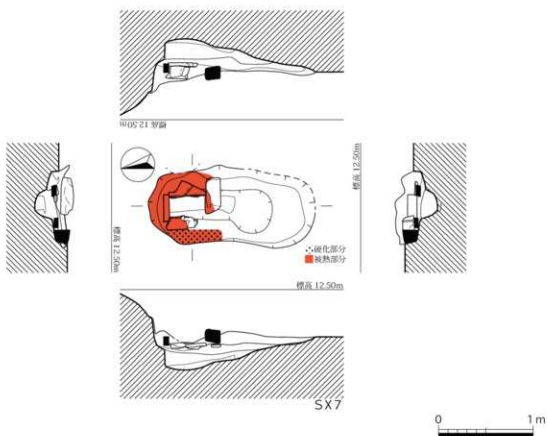
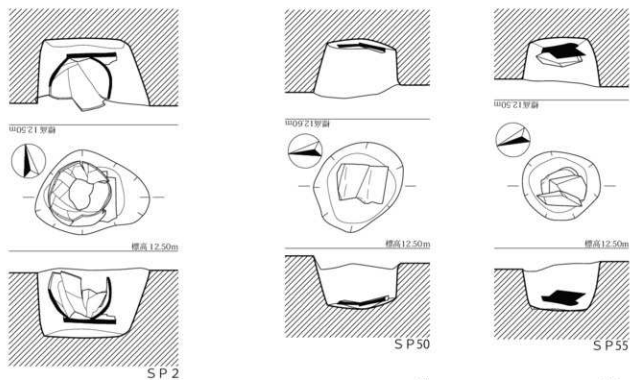
鍛冶遺構

S X 7 (第 14 図、図版 9・10)

西区で検出した鍛冶炉である。S K 33 に後出する。北に深く、南に緩やかな傾斜をもって徐々に立ち上がる隅丸長方形の土坑内に、石、煉瓦状の部材で長方形の炉体が構築されている。遺構全体の大きさは、長軸 1.7 m、短軸 0.8 m、最深部で 0.5 m を測る。炉体のある北側は二段掘りになっており、テラスの部分に炉材が横置きに組まれている。炉材とともに検出されている粘土焼結塊は炉材の固定材として使用された可能性がある。煉瓦状の炉材は、22.8cm 以上 × 9.2cm × 6.1cm の直方体に整形し、焼成されたものである。炉体は、1 段目に石や煉瓦状の炉材を配置し、その上に粘土の焼結塊が検出されており、さらにその上に炉材が積まれた可能性も想定される。また、石材より下にある遺構の壁や底は被熱していなかった。

炉体を中心に約 80cm 四方が強く被熱していた。そのうち西の長手側の硬化が顕著であり、羽口

IV. 久留米城下町道路第 30 次調査



第 14 図 SP 2・50・55、SX7 実測図 (SX7 は 1/40、それ以外は 1/20)

の設置場所の可能性がある。

炉内より近世陶磁器片、鍛冶滓が出土した。近世陶磁器は細片であるが、18世紀中頃に属する。鍛冶滓は小型品が数点あり、椀形滓は含まれていない。埋土のうち、サンプリングした1,500gを水洗し、乾燥後観察したが、鍛造剥片などの微細遺物は確認されなかった。

SX 21 (第15図、図版10)

西区で検出した鍛冶炉である。SE 20・SK 40に先行し、SK 22に後出する。長軸2.9m、短軸1.4m、深さ1.3mを測る。

6層まで掘り下げたところで、遺構の北側に円形に配列された石材および100cm×48cmの隅丸方形の非常に強い被熱痕跡が認められた。また、南側には木炭の広がりが見られ、南側へ掻き出されたようにみられる。この隅丸方形の比熱部分や遺構の掘方の形状は、中国山地でみられる大鍛冶炉に類似する。大鍛冶炉は、石組の隅丸方形や長方形の炉を構築し、そこに木炭を充填させ、精錬を行う。そのため、大鍛冶炉の土層断面には炉の立ち上がりが観察されるが、SX21の土層の堆積状況からはそういった立ち上がりは観察されなかった。即ち、被熱痕跡より上面は破壊され、1～6層までは廃絶時に埋められたと推測される。1～6層からは18世紀中頃の近世陶磁器が出土しているため、この時期に廃絶されたのであろう。なお、埋土のうちサンプリングした6,615gを水洗し、乾燥後観察したが、1・2・7・21層から鍛造剥片などの微小遺物は確認されなかった。

第2表 久留米城下町遺跡第30次調査 水洗した埋土一覧

遺構番号	層位	重量(g)	備考
SK14		990	石炭(85.2g)が出土
SK48		11,630	石炭(141.2g)・木炭・鉄滓・鍛造剥片(53.3g)・粒状滓(27.9g)・珪石が出土
SX7		1,500	
SX21	1層	4,300	
SX21	2層	1,075	
SX21	7層	660	
SX21	21層	580	

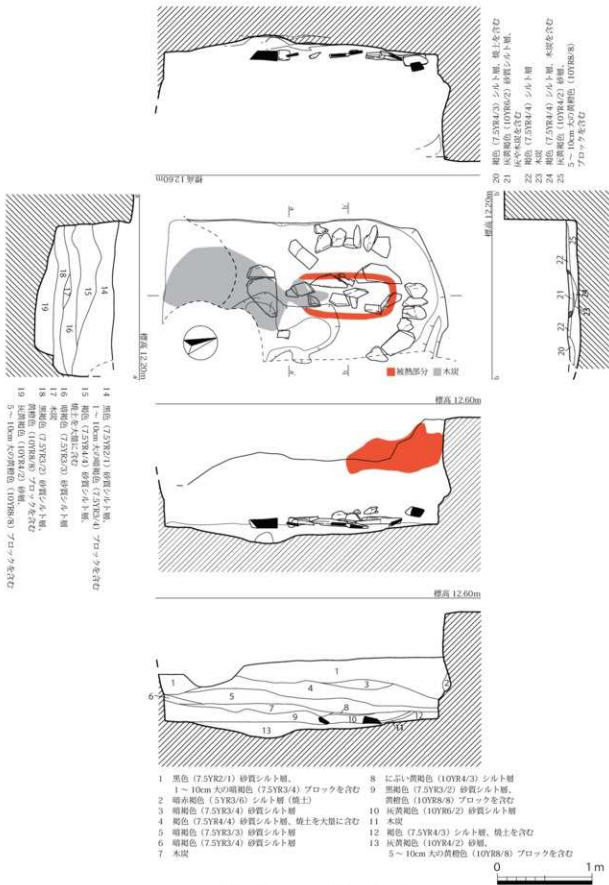
2. 出土遺物

合計30箱の遺物が出土した。このうち、近世陶磁器類が20箱、鉄滓・鉄製品が10箱である。紙面の都合上、実測図は一部の鉄滓や鉄製品に限られる。その他の出土遺物の法量等に関しては、観察表(第5～12表)を参照されたい。以下、特筆すべき遺物について述べる。

SK 30から50・53、55・56、59・60、61～77、78・79、80・81といった器形や文様を同じくする揃いの碗や碗蓋、皿などが出土しており、一括で廃棄されたとみられる。

89はSK 30で出土したガラス製品である。おそらく容器とみられるが、形状は不明である。蛍光X線による元素分析の結果、ソーダ石灰ガラスとみられる。元素分析の結果は第16図を参照されたい。

9・33～35・44・46・103・113・114・119・140・164・188・200・218・241は砥石である。掲載していない細片を含め、24点が出土した。このうち9・33・35・113・114・218には明瞭な

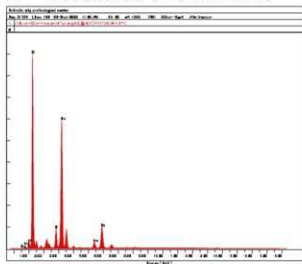


第 15 図 S X 21 実測図 (1/40)

使用痕が観察できた。なお、9には格子状の使用痕がみられる。

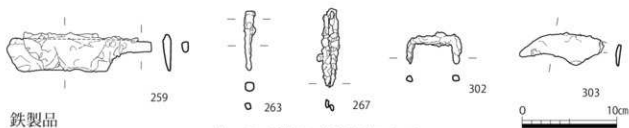
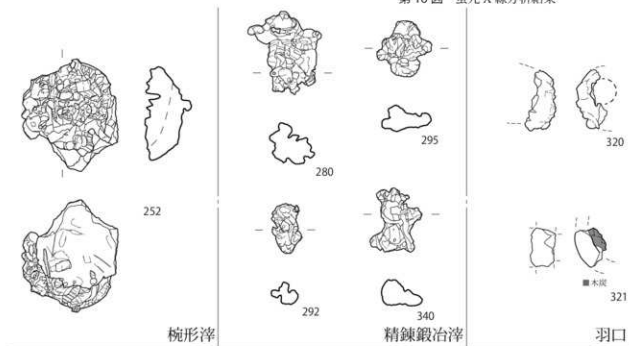
28・92～97・142～145・92～95・97・160・175・193～195・219・223は銭貨で、寛永通宝(92～95・97・160・175・193・195)や洪武通宝(143～145)、熙寧元宝(142)がみられる。

252はS E 53出土の椀形滓で、2個体分が上下に重なっている。底面には砂礫が付着している。木炭の噛みこみはみられなかった。280はS K 30、292・295はS K 32、340はS X 7から出土した精錬鍛冶滓である。いずれも不整形であり、重量は軽い。259はS E 53出土の包丁、263はS K 4出土の釘、267はS K 15出土の毛抜である。302・303はS K 32から出土した。302は鋸、303は鎌である。320・321はS K 48から出土した羽口である。いずれも全体的に摩滅しており、内面は剥落している。



100 200 300 400 500 600 700 800 900 1000

第16図 蛍光X線分析結果



第17図 鉄製品・鉄滓実測図(1/4)

3. 総括

(1) 鍛冶関連遺物について

今回の調査では、鍛冶関連遺物が出土した。以下、①鉄滓②粒状滓③鍛造剥片④鉄製品に分けて記述する。

①鉄滓

出土した鉄滓は、鍛錬鍛冶で生成された椀形滓と精錬鍛冶滓に分けられる。なお、担当者がどちらとも判別できなかったものはその他として整理している。

出土した椀形滓は、①底面に砂礫の付着がみられる②木炭の噛みこみがない③鉄分を多く含み、体積に対して重量があるという特徴がある。このことから、椀形滓は鍛錬鍛冶に伴うものと判断される。総重量は 12,006.8g である。S E 53 からの出土量が最も多く、2,124.6g と全体の 17.7% を占めている。椀形滓は 17 世紀前半から出土し始め、18 世紀中頃から後半にかけて出土量のピークを迎えている。19 世紀になると出土量は激減する。

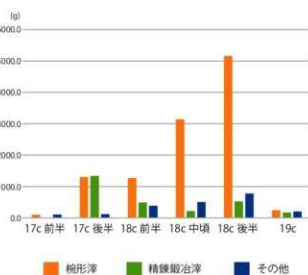
出土した精錬鍛冶滓は①不整形②鉄分がほぼ含まれておらず、体積に対して重量が軽いという特徴がある。総重量は 4869.2g である。時期不明の S K 48 からの出土量が最も多く、1853.1g と全体の 38.1% を占めている。時期が分かる遺構としては、S K 32 からの出土量が最も多い。出土量は 1309.3g であり、全体の 26.9% を占めている。精錬鍛冶滓は 17 世紀後半の出土量が最も多く、S K 32 から出土した精錬鍛冶滓の量を繁栄している。18 世紀を通じて出土量の大きな変動はみられないが、19 世紀になると出土量は減少する。

②鍛造剥片 (図版 21)

鍛造剥片とは、鉄塊を鍛打した際に飛散する剥片で、鍛錬鍛冶に伴う微小遺物である。出土した鍛造剥片は大型で厚いものと小型で薄いものに大別できる。それぞれ高温鍛錬鍛冶と低温鍛錬鍛冶

第 3 表 出土鉄滓の重量

	椀形滓		精錬鍛冶滓		その他	
	個数	重量 (g)	個数	重量 (g)	個数	重量 (g)
17 世紀前半	1	102.3	0	0.0	1	103.8
17 世紀後半	11	1,301.7	41	1,337.5	2	115.0
18 世紀前半	16	1,269.9	13	486.1	11	384.6
18 世紀中頃	37	3,138.6	4	215.9	15	501.3
18 世紀後半	66	5,160.5	10	523.0	35	776.7
19 世紀	3	244.0	3	173.7	3	202.4
時期不明	10	789.8	354	2,133.0	7	302.5
合計	144	12,006.8	425	4,869.2	74	2,386.3



第 18 図 時期別の鉄滓重量

の2種の工程に対応する。S K 48 から 53.3 g 出土した。

③粒状滓 (図版 21)

粒状滓とは、赤熱化した鉄素材の表面から滴下したり、鍛打で飛散して球状化した微小な酸化鉄を含む不純物である。出土した粒状滓は大きく歪な形のものと小さい球体に大別できる。前者が精錬鍛冶、後者が鍛錬鍛冶に対応する可能性が高い。S K 48 から 27.9 g 出土した。

④鉄製品

釘、刀子、包丁、鏝、鎌などが出土している。製品として作られただけでなく、補修や再利用のための製品を含むと考えられる。

(2) 鍛冶の工程と検出した鍛冶遺構について

まず、鍛冶関連遺物から鍛冶の工程を考えてみたい。精錬鍛冶滓と大きく歪な形の粒状滓が出土していることから精錬鍛冶が行われたと考えられる。椀形滓、鍛造剥片、大小の粒状滓からは、高温鍛錬鍛冶と低温鍛錬鍛冶の2種類の工程があったと推測できる。

次に、想定される工程と検出した遺構 (S X 7・21) との関係について考えてみたい。

中国山地の大鍛冶炉と類似する^(註1) 炉の構造から、S X 21 は精錬鍛冶炉と推定した。精錬鍛冶滓のうち、遺構の位置関係から、S K 32 出土遺物は、このS X 21 に伴うものと考えられる。

S X 7 については、鍛錬鍛冶炉と推定する。ただし、S X 7 は、操業時、炉の内部に木炭が充填していたと推測されるため、鍛冶を行った場合、底部に砂礫が付着しない椀形滓が生成されると推測される。しかし、今回出土した椀形滓には底部に砂礫が付着していたため、S X 7 で生じた鉄滓ではない。底部に砂礫が付着する椀形滓は、地山を掘り溜めた鍛錬鍛冶炉の存在を示唆するものであり、今回の調査では検出されなかったこととなる。

以上のことから、第30次調査地では、S X 21 が精錬鍛冶、S X 7 が鍛錬鍛冶に対応するが、底部に砂礫が付着する椀形滓を生成するような鍛冶炉も付近に存在し、高温・低温の鍛錬鍛冶が行われたと考えられる。

(3) 石炭について

S K 14・48 の埋土中から石炭が出土した。S K 48 の時期は不明であるが、S K 14 の時期は18世紀前半に位置付けられる。また、S K 48 からは、木炭・鉄滓・鍛造剥片・粒状滓・羽口が石炭と共に出土した。以上のことから、近世に石炭が鍛冶に使われた可能性がある。

また、近世の石炭使用を裏付ける文献資料が以下の通り挙げられる。

①『米府年表』(享保十二〔1727〕年)^(註2)

十月三日、土中石炭焚間敷旨、久米新蔵申達候事之由

②『石原家記』(宝暦六〔1756〕年三月カ)^(註3)

上津荒木・藤田に石炭始候処、此所地下式丈余下に大木朽木、上津荒木・藤田より田方迄の間、四里余大分あり、香氣あり、藤田百助殿・東原段之進殿、為見分御出、沈香などの様にあり、別所清左衛門より貰ひ参

①については、藩士の石炭使用を禁じることを久米新蔵が伝えたとするもので、18 世紀前半には石炭が使用されていたことが窺える。②については、上津荒木・藤田^(註4)で石炭を採掘したという内容である。

なお出土した石炭は、通電しないことと比重が軽いことから、コークスとして加工されたものではないと推測される。

(4) 遺構の変遷について (第 19 図)

今回の調査では、17 世紀から 19 世紀にかけての遺構を確認した。先述した鍛冶遺構の検出や鍛冶関連遺物の出土から、調査地は近世には鍛冶屋があったと考えられる。以下、遺構の変遷を時期別に述べる。

17 世紀前半は、S E 11、S K 56 が該当する。調査地が所在する通町六丁目は寛永元年(1624)に建設が始まり、寛永 18 年(1641)には成立した町であるため、町の成立期の遺構でもある。主に調査地の北側に分布する。遺構から少量ではあるが鍛錬鍛冶に伴う椀形滓が出土していることから、町の成立当初から操業を始めた可能性がある。また、S K 56 から 16 本の釘が出土している。

17 世紀後半は、S K 32・63・64 が該当する。S K 32 は 1,071.9g の椀形滓と 1,309.3g の精錬鍛冶滓が出土しており、精錬鍛冶・鍛錬鍛冶ともに本格的な操業が開始したとみられる。

18 世紀前半は、S E 34、S K 14・19・28・37・39・54・81 が該当する。S K 14 からは石炭が出土している。精錬鍛冶滓の出土量は減少するものの、椀形滓の出土量はほぼ横這いである。

18 世紀中頃は、S E 20・S K 13・29・35・40・44・46、S X 7・21 が該当する。東区に遺構はみられない。S E 20、S X 7・21 は廃絶の年代を示すものである。S K 32 から多量の精錬鍛冶滓が出土していることから、S X 21 は 17 世紀後半からこの時期まで稼働していた可能性がある。また、S E 20 が S X 21 に後出する。井戸の使用から廃絶までが 18 世紀中頃の一時期だけにおさまるとは考えにくく、S E 20 と S X 21 が併存していた可能性もある。

18 世紀後半は、S E 53・S K 1・30・42・49・52・70・72・74・75 が該当する。遺構数は西区では減少するが、東区では増加する。椀形滓の出土量はこの時期まで継続して増加しており、最盛期を迎えたとみられる。

19 世紀は、S K 41・58・73・76・77、S P 51 が該当する。遺構数は減少し、主に東区の南側に分布する。椀形滓・精錬鍛冶滓ともに出土量が減少する。18 世紀後半に比べ、椀形滓が 96% 減少、精錬鍛冶滓は 67% 減少している。そのため、18 世紀後半から 19 世紀の時期に鍛冶屋は廃業したと考えられるだろう。

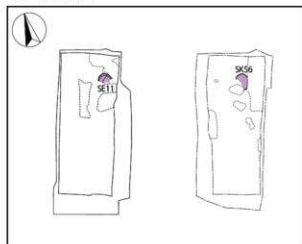
註1 例えば、鳥根県飯南町の獅子谷遺跡 4 号カマが挙げられる。(角田徳幸 2014『たたら吹製鉄の成立と展開』清文堂)

註2 久留米市役所 1973 『久留米市誌』下編 株式会社名著出版 p.135

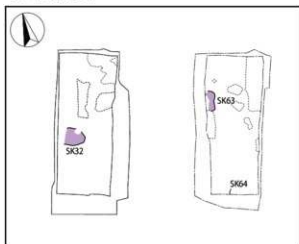
註3 石原為平 1973 『石原家記』下巻 株式会社名著出版 p.443

註4 上津荒木・藤田は現在の久留米市南部にあたり、筑後市・広川町に隣接する。

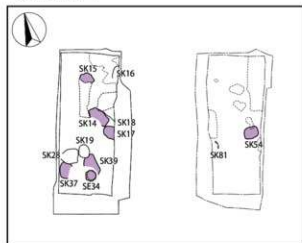
17世紀前半



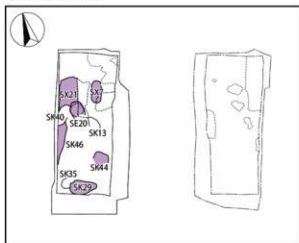
17世紀後半



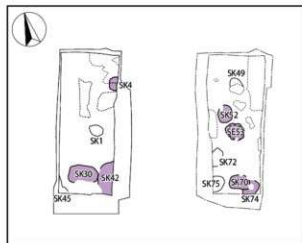
18世紀前半



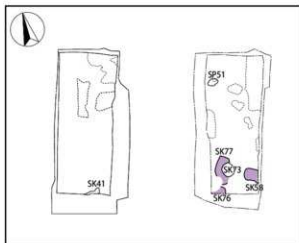
18世紀中頃



18世紀後半



19世紀



■ 鉄滓出土遺構

0 10m

第19図 久留米城下町遺跡第30次調査 主要遺構変遷図(1/300)

第 4 表 鍛冶関連遺物出土遺構一覧表

遺構	時期	掬形淨		精錬鍛冶淨		その他		鉄塊系 遺物	釘	刀子	包丁	鍬	鉄片	刀	鍬	毛拔	不明
		個数	重量 (g)	個数	重量 (g)	個数	重量 (g)										
SE11	17 世紀前半	1	102.3						1								
SE20	18 世紀中頃	11	868.7			8	276.9		9	2			1				1
SE34	18 世紀前半	2	226.3			1	25.1		2		1	1					
SE53	18 世紀後半	27	2,124.6	2	93.2	9	167.6		55	8	3						2
SK3	不明	1	89.3						1								1
SK4	18 世紀後半	2	186.0			2	96.3		11	1							2
SK13	不明	1	69.5														
SK14	18 世紀前半					2	139.7		1								
SK15	18 世紀前半			3	123.1	1	18.5		14	1						1	
SK17	18 世紀前半	6	342.8	3	48.3	4	107.7		4								
SK28	18 世紀前半	1	115.3														
SK29	18 世紀中頃								1	1							
SK30	18 世紀後半	15	1,043.0	5	296.9	9	76.6	1	27	2							11
SK32	17 世紀後半	7	1,071.9	40	1,309.3	1	60.2	2	18	7	2	2	1		1		7
SK37	18 世紀前半								2								
SK39	18 世紀前半	4	359.2	7	314.7				12	2							2
SK40	不明	2	130.4	3	147.1	4	217.4		1	1							
SK42	18 世紀後半	6	441.5	3	132.9	6	196.5		8								
SK44	18 世紀中頃	8	870.5	1	37.9	3	57.4		2	1							
SK46	18 世紀中頃	12	975.2	2	107.2				5								
SK48	不明			347	1,853.1												
SK52	18 世紀後半	4	318.8						2								
SK54	18 世紀前半	3	226.3			1	75.0		3				1				
SK56	17 世紀前半					1	103.8		16	1							
SK58	19 世紀	2	80.0														
SK63	17 世紀後半	4	229.8	1	28.2	1	54.8		10	3							
SK70	18 世紀後半	3	265.7			7	164.1		14	1							1
SK72	18 世紀後半	1	126.5						2								
SK73	19 世紀前半			1	106.5												
SK74	18 世紀後半	8	654.4			2	75.6		8								
SK76	19 世紀			2	67.2	2	178.8										
SK77	19 世紀					1	23.6			1							1
SK78	不明	1	32.2			1	22.0		1								
SK81	18 世紀前半					2	18.6		4								
SP2	19 世紀	1	164.0						2								4
SP24	不明	1	40.6														
SP25	不明								1								
SP26	不明									1							
SP27	不明	1	59.1	1	27.8				2								1
SP47	不明	1	93.1														
SP60	不明	2	275.6			1	31.8		1								
SP61	不明					1	31.3		1								
SP65	不明			1	50.4												
SP68	不明								1								
SP80	不明			2	54.6												
SX7	18 世紀中頃			1	70.8	2	126.1										
SX21	18 世紀中頃	6	424.2			2	40.9		4	1							2
合計		144	12,006.8	425	4,869.2	74	2,386.3	4	245	34	6	3	2	1	1	1	35

第5表 久留米城下町遺跡第30次調査 出土土物観察表1

遺物 番号	図号 番号	遺構	材質	形状	数量			発見 高さ 色別	形状・調整		見込み	遺置・高台内印誌	備考	登録 番号				
					口徑 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)		外周	内周								
1	図版11 SE11	磁器	皿	-	(5.8)	(0.8)	染付	草				ケズリ	明染	202109 000014				
2	図版11 SE11	陶器	皿	(15.5)	-	(2.2)	灰						濃緑釉、17c前半	202109 000017				
3	図版11 SE11	陶器	皿	(26.4)	-	(4.2)	灰						17c前半	202109 000021				
4	図版11 SE20	磁器	碗	6.3	2.6	4.5	染付	圓縁・蘭					圓縁	17c中頃	202109 000023			
5	図版11 SE20	磁器	碗	-	(4.2)	(3.1)	染付	花唐草					18c前半	202109 000024				
6	図版11 SE20	磁器	碗	-	(4.2)	(3.0)	染付	圓縁・草花					二重圓縁・酒福	18c前半	202109 000025			
7	図版11 SE20	磁器	碗	(8.6)	-	(2.2)	染付	菊					ごんにゃく印判、 18c中頃	202109 000028				
8	図版11 SE20	陶器	皿	(14.5)	-	(2.8)	灰						濃緑釉、17c前半	202109 000029				
9	図版11 SE20	石製	砥石	(6.6)	5.7	1.9	浅黄褐色						格子状の使用痕?あり	202109 001454				
10	図版11 SE34	磁器	皿	12.2	(7.9)	2.6	染付	圓縁・唐草	草花		二重圓縁・不明	圓縁・二重圓縁	18c前半	202109 000112				
11	図版11 SE53	磁器	碗	(8.6)	(4.0)	4.0	染付	二重圓口	圓口				18c前半	202109 000154				
12	図版11 SE53	磁器	碗	(9.0)	(3.8)	4.1	染付	若松					18c中頃	202109 000155				
13	図版11 SE53	磁器	碗	(8.8)	-	(3.9)	染付	青磁					口底、18c後半	202109 000156				
14	図版11 SE53	磁器	碗	(9.8)	-	(4.4)	染付	桐					ごんにゃく印判、18c中頃	202109 000161				
15	図版11 SE53	磁器	碗	(10.0)	-	(4.5)	染付	草花					18c前半	202109 000171				
16	図版11 SE53	磁器	小碗	7.2	3.4	3.3	白磁						18c前半	202109 000157				
17	図版11 SE53	磁器	皿	(14.4)	(8.0)	2.6	染付	二重圓縁・ 平菊唐草	龍ノ目輪縁・ 五弁花				印縁付着	ごんにゃく印判、くらわん か手、18c後半	202109 000158			
18	図版11 SE53	磁器	皿	(14.0)	(8.0)	3.3	染付	二重圓縁・ 平菊唐草	龍ノ目輪縁・ 五弁花				印縁付着	ごんにゃく印判、くらわん か手、18c後半	202109 000164			
19	図版11 SE53	磁器	皿	(14.0)	(8.8)	3.2	染付	二重圓縁・ 平菊唐草	龍ノ目輪縁・ 五弁花				印縁付着	ごんにゃく印判、くらわん か手、18c後半	202109 000172			
20	図版11 SE53	磁器	猪口	-	-	(3.6)	染付	圓縁・唐草	四方巻					輪花、18c前半	202109 000162			
21	図版11 SE53	磁器	仏飯	(7.4)	4.1	5.1	染付								202109 000163			
22	図版11 SE53	陶器	碗	(9.0)	3.9	4.6	灰							18c中頃	202109 000174			
23	図版11 SE53	陶器	皿	(17.0)	5.9	5.2	灰							龍ノ目輪縁	202109 000168			
24	図版11 SE53	陶器	皿	(13.2)	4.4	3.4	灰							龍ノ目輪縁	202109 000170			
25	図版11 SE53	陶器	猪鉢	-	13.4	(8.0)	陶							砂目	202109 000176			
26	図版11 SE53	陶器	燈明受皿	9.0	4.6	2.5	陶	一部輪縁						糸切り	202109 000159			
27	図版11 SE53	陶器	燈明受皿	8.4	4.5	3.2	陶	圓縁・ナデ						糸切り	202109 000172			
28	図版11 SE53	製鉄品	残炭	直径	2.2	0.4								2.8g	202109 000452			
29	図版11 SK1	磁器	碗	9.0	4.6	6.3	染付	圓縁・冠・山水・ 雲屋	唐摺文					二重圓縁・五弁花	圓縁	17c後半	202109 000001	
30	図版11 SK1	磁器	碗	-	(4.0)	(4.0)	染付	山水・冠・丹粉?						二重圓縁・五弁花	二重圓縁・酒福	17c後半	202109 000002	
31	図版11 SK1	磁器	皿	12.4	7.4	2.7	色絵							草花	龍ノ目輪縁	龍ノ目高台	18c中頃	202109 000053
32	図版11 SK4	磁器	段足	-	(10.8)	(2.3)	染付	圓縁・不明						龍ノ目輪縁	19c	202109 000008		
33	図版11 SK4	石製品	砥石	5.6	(3.8)	0.7	灰色								24.3g、使用痕あり	202109 000026		
34	図版11 SK4	石製品	砥石	6.3	4.4	1.5									65.4g	202109 000010		
35	図版12 SK4	石製品	砥石	9.4	3.8	2.2	明黄褐色								74.4g、使用痕あり	202109 000011		
36	図版12 SK14	磁器	皿	14.4	8.2	3.8	染付	唐草	草花					二重圓縁・五弁花	圓縁・酒福・砂縁 付着	ごんにゃく印判、18c前半	202109 000012	
37	図版12 SK15	磁器	皿	13.8	8.0	3.3	染付	圓縁	圓縁・梅?					二重圓縁・花	二重圓縁	くらわんか手、18c前半	202109 000016	
38	図版12 SK16	磁器	碗	7.6	3.6	4.9	染付	圓縁・山水						二重圓縁	18c前半	202109 000025		
39	図版12 SK16	製鉄品	雜着	1.8	1.6	0.1									3.3g	202109 000417		
40	図版12 SK17	磁器	瓶	-	(7.7)	(9.6)	染付	圓縁・不明						二重圓縁・砂縁付 着	くらわんか手、17c末~ 18c初	202109 000018		
41	図版12 SK18	磁器	皿	(10.2)	(6.6)	2.0	染付	圓縁・唐草	草花					二重圓縁・五弁花	二重圓縁	輪花、18c前半	202109 000019	
42	図版12 SK19	磁器	皿	(11.3)	(7.6)	2.0	染付	圓縁・唐草	草花					二重圓縁	二重圓縁	輪花、18c前半	202109 000021	
43	図版12 SK28	磁器	瓶	-	(7.2)	(15.7)	染付	圓縁・丸・圓口?	輪垂れ					二重圓縁	17c末~18c初	202109 000141		

IV. 久留米城下町遺跡第 30 次調査

第 6 表 久留米城下町遺跡第 30 次調査 出土土物観察表 2

遺物 番号	調査 番号	遺構	材質	器種	重量			染付 施された 色数	線跡・刻線		見込み	遺蹟・高台内印線	備考	登録 番号
					口徑 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)		外周	内周				
44	環版12	SK28	石製品	砥石	(10.3)	(6.6)	4.8	黄褐色					416g	202109 000047
45	環版12	SK29	磁器	碗	(8.0)	-	(3.1)	染付	樹				こんにゃく印判, 18c 中皿	2020119 000048
46	環版12	SK29	石製品	砥石	(3.0)	(3.1)	0.8	に赤い 藍色					9.1g	202109 000051
47	環版12	SK30	磁器	碗	(8.2)	3.1	4.0	染付	二重線跡・樹木・ 人物・鳥	二重線跡	線跡・文字		17c 末～18c 前半	202109 000053
48	環版12	SK30	磁器	碗	(7.8)	(3.4)	4.2	染付	菊?				こんにゃく印判, 兼鳥, 18c	202109 000054
49	環版12	SK30	磁器	碗	(9.6)	-	(5.8)	染付	線跡・草花	四方溝	二重線跡		17 陶碗, 18c	202109 000055
50	環版12	SK30	磁器	碗	11.8	4.7	6.2	染付	線跡・草花	四方溝	二重線跡・五弁花	二重線跡	18c 前半	202109 000057
51	環版12	SK30	磁器	碗	11.7	4.8	6.0	染付	線跡・草花	四方溝	二重線跡・五弁花	二重線跡	18c 前半	202109 000062
52	環版12	SK30	磁器	碗蓋	9.8	-	2.8	染付	線跡・草花	四方溝	二重線跡・五弁花	二重線跡	18c 前半	202109 000074
53	環版12	SK30	磁器	碗蓋	10.0	-	3.0	染付	線跡・草花	四方溝	二重線跡・五弁花	二重線跡	18c 前半	202109 000072
54	環版12	SK30	磁器	碗蓋	9.8	4.0	3.1	染付	竹・草花・花	四方溝	二重線跡・五弁花	内溝縁	18c 前半	202109 000075
55	環版12	SK30	磁器	皿	(6.0)	(12.0)	3.8	染付	線跡・草	草花	線跡・二重線跡		輪花, 18c 前半	202109 000056
56	環版12	SK30	磁器	皿	11.4	(5.9)	3.8	染付	線跡・草	草花	線跡・二重線跡		輪花, 18c 前半	202109 000057
57	環版12	SK30	磁器	瓶	-	4.7	(12.8)	染付	草花	露筋			仔細付着	202109 000076
58	環版12	SK30	陶器	碗	(12.0)	4.0	4.8	灰		岩山			露筋	202109 000054
59	環版12	SK30	陶器	碗	(9.4)	3.1	5.9	灰	草花				露筋	202109 000092
60	環版12	SK30	陶器	碗	9.2	3.3	5.4	灰	板・格子				露筋	202109 000096
61	環版12	SK30	陶器	碗	9.7	3.7	5.6	灰	不明				露筋	202109 000097
62	環版12	SK30	陶器	碗	9.0	3.0	5.1	灰	不明				露筋	202109 000057
63	環版12	SK30	陶器	碗	(9.0)	3.0	5.0	灰	不明				露筋	202109 000058
64	環版12	SK30	陶器	碗	-	3.2	(3.3)	灰					露筋	202109 000059
65	環版12	SK30	陶器	碗	-	3.2	(3.1)	灰					露筋	202109 000060
66	環版12	SK30	陶器	碗	-	3.2	(3.9)	灰					露筋	202109 000061
67	環版12	SK30	陶器	碗	-	3.2	(3.0)	灰					露筋	202109 000062
68	環版12	SK30	陶器	碗	-	-	(3.8)	灰	不明				18c 後半～19c 初頭	202109 000064
69	環版12	SK30	陶器	碗	9.3	3.1	(5.5)	灰	不明				露筋	202109 000065
70	環版12	SK30	陶器	碗	-	3.2	(4.0)	灰					露筋	202109 000066
71	環版12	SK30	陶器	碗	(9.2)	3.3	5.3	灰					露筋	202109 000067
72	環版12	SK30	陶器	碗	-	3.2	(3.3)	灰					露筋	202109 000068
73	環版12	SK30	陶器	碗	-	(3.2)	(3.8)	灰					露筋	202109 000069
74	環版12	SK30	陶器	碗	(9.2)	3.0	5.8	灰					露筋	202109 000070
75	環版12	SK30	陶器	碗	(9.4)	3.2	5.7	灰					露筋	202109 000071
76	環版12	SK30	陶器	碗	-	3.2	(4.1)	灰	不明				露筋	202109 000072
77	環版12	SK30	陶器	碗	(9.0)	3.1	5.2	灰					露筋	202109 000073
78	環版12	SK30	陶器	碗	10.5	4.5	6.4	灰	若松				露筋	202109 000083
79	環版12	SK30	陶器	碗	(10.7)	4.0	5.3	灰	若松				露筋	202109 000082
80	環版12	SK30	陶器	小碗	(6.3)	2.3	3.9	灰	若松				露筋	202109 000093
81	環版12	SK30	陶器	小碗	6.4	2.3	4.0	灰	若松				露筋	202109 000094
82	環版12	SK30	陶器	皿	-	4.8	(13.5)	灰		胎土目			露筋	202109 000084
83	環版12	SK30	陶器	鉢	19.0	7.6	6.7	灰	刷毛目	靴ノ目線跡			露筋	202109 000085
84	環版12	SK30	陶器	土瓶	(9.0)	5.1	10.1	灰	裾				露筋・煤付着	202109 000078
85	環版12	SK30	陶器	火入	10.6	6.1	8.5	灰	世				露筋	2020119 000098
86	環版12	SK30	土師器	甕	6.1	5.3	7.3	褐色	ナ子	ナ子				202109 000094

第7表 久留米城下町遺跡第30次調査 出土土物観察表3

遺物 番号	調査 番号	遺構	材質	器種	数量			発見 高さ 色別	線路・調整		見込み	遺蹟・高台内印線	備考	登録 番号		
					口徑 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)		外周	内周						
87	同敷13	SK30	土師器	竜首蓋	7.8	6.0	2.0	褐色	ナデ	ナデ				202109 000091		
88	同敷13	SK30	土師器	人形	(2.5)	(2.0)	(2.1)	褐色					仏	202109 000140		
89	同敷13	SK30	ガラス	老人ぼ 玉	0.9	-	0.2	黄色						202019 000192		
90	同敷13	SK30	ガラス	不明	-	-	-	オリーブ 灰色						202109 000099		
91	同敷13	SK30	製製品	釘	2.7	0.8	0.1						0.8g	202019 000424		
92	同敷13	SK30	製製品	銭貨	直径2.3		0.1						2.3g、寛永通宝	202109 000418		
93	同敷13	SK30	製製品	銭貨	直径2.5		0.1						2.9g、寛永通宝、「文」	202109 000419		
94	同敷13	SK30	製製品	銭貨	直径2.4		0.1						2.5g、寛永通宝	202109 000423		
95	同敷13	SK30	製製品	銭貨	直径2.4		0.2						4.1g、寛永通宝	202109 000421		
96	同敷13	SK30	製製品	銭貨	直径2.4		0.3						8.8g、不明、銭貨付着	202109 000422		
97	同敷13	SK30	製製品	銭貨	直径2.4		0.1						3.9g、寛永通宝	202109 000423		
98	同敷13	SK32	磁器	碗	-	-	(5.3)	染付	蘭画・山水				17c	202109 000103		
99	同敷13	SK32	陶器	鉢	-	-	(5.2)	緑						202109 000196		
100	同敷13	SK32	陶器	漆鉢 (33.1)	-	-	(10.4)	黒	同敷ナデ・一部施 軸	同敷ナデ・一部施 軸・磨目			17c 後半	202109 000107		
101	同敷13	SK32	土師器	打明皿	9.2	4.7	2.1	に い い 黄 褐色	同敷ナデ	同敷ナデ			糸切り	202109 000109		
102	同敷13	SK32	土師器	土鈴	4.1	2.8	2.7	に い い 黄 褐色	ナデ	ナデ					202109 000110	
103	同敷13	SK32	石製品	砥石 (2.4)	(2.3)		1.1	に い い 黄 褐色					9.0g	202109 000111		
104	同敷13	SK37	磁器	碗	-	-	8.5 (1.8)	染付					草花	202109 000114		
105	同敷13	SK37	磁器	碗	-	-	(5.0)	染付	二重蘭画・草花			二重蘭画	18c 前半	202109 000116		
106	同敷14	SK37	陶器	大鉢	-	9.6 (3.6)		緑・黒	踏跡	網毛目・打刷毛目	磨目				202109 000118	
107	同敷14	SK39	磁器	碗	-	4.2 (3.1)		染付	流水					18c 前半	202109 000120	
108	同敷14	SK39	磁器	碗	10.0	-	(3.5)	染付	丸・菊・草					18c 前半	202109 000121	
109	同敷14	SK39	磁器	水筒	6.5	3.8 (7.4)		染付	桜	踏跡				底面無軸	202109 000122	
110	同敷14	SK39	磁器	火入	11.8	7.4	7.3	陶繪染付	蘭画・二重蘭画・ 山	一部施軸			踏跡	観音帳、18c 前半	202109 000123	
111	同敷14	SK39	陶器	漆鉢	29.0	12.6 (12.8)		黒	磨目・ナデ	同敷ナデ			糸切り	口縁部のみ施軸	202109 000125	
112	同敷14	SK39	陶器	火入	9.2	5.1	6.0	灰・緑	磨	同敷ナデ			踏跡		202109 000124	
113	同敷14	SK39	石製品	砥石 (3.8)	(3.7)		0.6	浅黄褐色					14.9g、使用痕あり	202109 000126		
114	同敷14	SK39	石製品	砥石 (5.8)	4.3		0.9	に い い 黄 褐色					34.1g、使用痕あり	202109 000127		
115	同敷14	SK40	磁器	碗 (9.4)	(3.6)		5.0	白磁							202109 000128	
116	同敷14	SK40	陶器	皿	-	(4.8)	(1.3)	灰					磨目		202109 000129	
117	同敷14	SK42	磁器	碗	-	(3.4)	(2.9)	染付	蘭画・龍文				二重蘭画	17c 末-	202109 000132	
118	同敷14	SK42	磁器	皿	-	(4.8)	(2.5)	青磁					靴ノ目輪割ぎ、二 重蘭画・五弁花	18c 後半	202109 000131	
119	同敷14	SK42	石製品	砥石 (4.8)	3.0		1.1	明黄褐色					29.4g	202109 000133		
120	同敷14	SK42	製製品	鴨口	6.5	1.2	0.1						8.9g	202109 000425		
121	同敷14	SK44	磁器	碗 (11.8)	-	(4.0)		染付	水雲菊花					18c 中頃	202109 000134	
122	同敷14	SK44	陶器	皿 (13.6)	(4.7)		4.0	灰					靴ノ目輪割ぎ	踏跡	内ノ山系	202109 000136
123	同敷14	SK46	磁器	碗 (10.4)	-	(4.4)		染付	桐					ごんにゃく印判、18c 中頃	202109 000137	
124	同敷14	SK46	磁器	皿	-	(14.4)	(2.6)	染付	蘭画・唐草	二重蘭画・唐草	五弁花		蘭画・二重蘭画・ 成ノ年契・ハタリ	ごんにゃく印判、18c	202109 000138	
125	同敷14	SK46	土師器	人形 (3.1)	(2.8)		(3.0)	褐色						仏	202109 000139	
126	同敷14	SK49	磁器	皿 (13.8)	7.8		3.4	染付	蘭画・唐草	二重蘭画・雲・雷 文	五弁花		蘭画・二重蘭画・ 18c 後半	印割ぎ・ごんにゃく印判、 18c 後半	202109 000152	
127	同敷14	SK52	磁器	碗	-	-	(3.4)	染付	青磁	四方罫				18c 後半	202109 000152	
128	同敷14	SK52	磁器	碗	-	(4.0)	(3.4)	染付	蘭画・五葉若葉				蘭画・二重蘭画	ごんにゃく印判、18c 前半	202109 000150	
129	同敷14	SK52	陶器	打明皿	9.2	4.2	2.7	黒	一部施軸					糸切り	202109 000151	

IV. 久留米城下町遺跡第 30 次調査

第 8 表 久留米城下町遺跡第 30 次調査 出土土物観察表 4

遺物 番号	図面 番号	遺構	材質	器種	数量			発見 高さ 色別	形状・図類		見込み	用途・高出内白磁	備考	登録 番号	
					口徑 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)		外周	内周					
130	図版14	SK54	磁器	皿	15.3	9.1	4.8	白磁			三足ハマ籠	靴ノ目型高台	18c 前半	202109 000177	
131	図版14	SK54	土師器	壺?	(24.0)	(26.4)	22.4	赤色	ミガキ	ハケ目				202109 000178	
132	図版14	SK56	磁器	碗	(12.0)	(6.0)	6.6	染付	牡丹?				砂目	靴生がけ?	202109 000182
133	図版14	SK56	磁器	皿	-	(7.0)	(2.2)	染付			開眼・砂目	砂目		理髪?	202109 000193
134	図版14	SK56	陶器	碗	-	3.3	(3.2)	灰					靴巾・三日月高台		202109 000183
135	図版14	SK56	陶器	碗	-	5.0	(1.9)	白					鞍輪轡		202109 000184
136	図版14	SK56	陶器	碗	-	-	-	白	不明					土野棧?	202109 000185
137	図版14	SK56	陶器	皿	-	-	(1.2)	灰							202109 000186
138	図版15	SK56	陶器	皿	(13.2)	-	(4.4)	灰		不明					202109 000189
139	図版15	SK56	陶器	漆鉢	(30.0)	-	(7.1)	褐色	回転ナデ	回転ナデ・磨目				臼脚部のみ発掘	202109 000188
140	図版15	SK56	石製品	砥石	(4.5)	3.4	0.5	浅灰色						14g	202109 000181
141	図版15	SK56	瓦葺土器	火鉢	-	-	(5.3)	黄灰色	回転ナデ	ナデ・ハケ目					202109 000187
142	図版15	SK56	銅製品	銭貨	直径 2.4	0.1								1.6g, 寛永元定	202109 000454
143	図版15	SK56	銅製品	銭貨	直径 1.8	0.1								0.9g, 洪武通宝	202109 000455
144	図版15	SK56	銅製品	銭貨	直径 5.0	0.1								1.8g, 洪武通宝	202109 000456
145	図版15	SK56	銅製品	銭貨	直径 3.2	0.1								1.5g, 洪武通宝	202109 000457
146	図版15	SK58	磁器	碗	-	(4.8)	(4.0)	染付	開眼・丸		二重開眼・五弁花	二重開眼・渦福	こんにゃく印判, 18c	202109 000192	
147	図版15	SK58	磁器	碗	(8.4)	-	(5.0)	色絵	開眼・山水・花	四方辨	二重開眼				202109 000197
148	図版15	SK58	磁器	碗蓋	(10.2)	-	(2.5)	染付	開眼・二重開眼・ 菊唐草						202109 000193
149	図版15	SK58	磁器	皿	(9.4)	(5.2)	2.0	色絵	開眼・菊輪	二重開眼・雲文	芍山・不明	開眼			202109 000194
150	図版15	SK58	磁器	皿	(12.8)	4.8	3.6	染付		二重斜格子					202109 000195
151	図版15	SK58	磁器	紅皿	4.7	1.6	1.6	白磁			二重開眼・靴ノ目 縁割ぎ				202109 000196
152	図版15	SK58	陶器	ハマ	6.2	-	1.6	に不 _レ い 褐色							202109 000198
153	図版15	SK63	磁器	碗	-	4.6	(3.6)	色絵	紅葉						202109 000201
154	図版15	SK63	磁器	碗	11.8	4.5	7.1	白磁	葛状の削り込み						202109 000202
155	図版15	SK63	磁器	碗	(11.2)	(4.2)	6.2	色絵?	山水						202109 000204
156	図版15	SK63	磁器	皿	(7.1)	-	(2.1)	青磁							202109 000207
157	図版15	SK63	磁器	瓶	-	8.0	(10.0)	青磁		軸垂れ					202109 000208
158	図版15	SK63	陶器	皿	-	4.3	(2.3)	瀬磁							202109 000203
159	図版15	SK63	土師器	灯明皿	(8.6)	(4.0)	2.1	灰白色	回転ナデ	回転ナデ					202109 000205
160	図版15	SK63	銅製品	銭貨	直径 (2.4)	0.1									202109 000458
161	図版15	SK64	磁器	碗	-	-	(3.1)	染付	芳・葛状の削り込 み						202109 000209
162	図版15	SK64	磁器	紅皿	(5.0)	2.3	1.5	白磁	臼脚部を発掘						202109 000211
163	図版15	SK64	陶器	漆鉢	-	-	(5.6)	褐	回転ナデ	回転ナデ・磨目					202109 000212
164	図版15	SK64	石製品	砥石	4.4	3.1	0.6	灰黄							202109 000214
165	図版15	SK64	銅製品	鎌首	2.3	1.7	0.1								202109 000452
166	図版15	SK64	銅製品	吸口	-	1.1	0.1								202109 000453
167	図版15	SK70	磁器	碗	10.3	4.1	5.1	染付	水梨菊花						202109 000216
168	図版15	SK70	磁器	碗	10.3	4.1	4.8	染付	丸						202109 000233
169	図版15	SK70	磁器	皿	(13.2)	4.6	4.0	染付		二重斜格子	二重開眼・靴ノ目 縁割ぎ				202109 000223
170	図版15	SK70	磁器	仏飯	7.8	3.7	5.4	白磁							202109 000225
171	図版15	SK70	陶器	蓋	(10.7)	-	4.7	灰・靑・ 緑							202109 000226
172	図版15	SK70	陶器	鉢	(18.6)	9.2	10.0	褐	白土化粧・刷毛目	白土化粧					202109 000227

第9表 久留米城下町遺跡第30次調査 出土土物観察表5

遺物 番号	図号 番号	産地	材質	器種	重量			染付 施彩色 色別	線跡・刻線		見込み	遺蹟・高台内印跡	備考	登録 番号
					口徑 (㎝)	底径 (㎝)	高さ (㎝)		外周	内周				
173	図版15	SK70	陶器	鉢	(21.4)	(9.4)	9.5	灰・黒	白土化粧・刷毛目	白土化粧・刷毛目				202109 000228
174	図版16	SK70	土師器	火鉢	(29.0)	(23.4)	12.0	灰	ナデ	ナデ				202109 000229
175	図版16	SK70	複製品	瓦葺	直径 2.4	0.1						3.7g, 裏水透定		202109 000452
176	図版16	SK70	複製品	摩訶	1.8	1.7	0.1					2.7g		202109 000463
177	図版16	SK70	複製品	吸口	3.2	1.1	0.1					2.3g		202109 000463
178	図版16	SK72	磁器	碗	(11.0)	(4.2)	12.4	染付	亀甲型芝文・蓮弁	四方準	二重線跡・源氏香	二重線跡		202109 000233
179	図版16	SK72	磁器	碗	(7.4)	3.7	5.5	染付	圓線・格子・菊	二重線跡	圓線・五弁花	18c 後半		202109 000237
180	図版16	SK72	磁器	碗	(7.8)	-	(3.1)	色絵	若松・折鶴					202109 000244
181	図版16	SK72	磁器	碗	7.1	3.5	5.8	染付	圓線・松竹梅・雲	四方準	圓線・五弁花	二重線跡	18c 末～	202109 000253
182	図版16	SK72	磁器	碗蓋	(10.0)	5.4	2.7	染付	竹・木	二重線跡	圓線・十字花	二重線跡	18c 末～19c 初葉	202109 000245
183	図版16	SK72	磁器	鉢	(15.8)	9.0	6.2	染付	桜	四方準	二重線跡・松竹梅	梅花		202109 000241
184	図版16	SK72	磁器	仏瓶	-	4.0	(6.5)	染付	圓線・格子・菊		露筋	18c 末		202109 000247
185	図版16	SK72	陶器	碗	9.0	2.8	5.6	灰			露筋	18c 後半		202109 000241
186	図版16	SK72	陶器	碗	12.8	4.7	6.7	白			露筋・ヘラケズリ	露筋, 18c		202109 000248
187	図版16	SK72	陶器	壺	7.2	5.0	5.6	黒褐色 黄褐色	回転ナデ	回転ナデ		糸切り	内面に墨字付着	202109 000259
188	図版16	SK72	石製品	砥石	(10.1)	5.8	0.9	に青い 黄褐色					95.9g	202109 000251
189	図版16	SK72	複製品	吸口	5.0	1.9	0.03					4.8g		202109 000461
190	図版16	SK73	磁器	碗蓋	(9.2)	3.7	2.9	染付	海老・芝文	渦	雲	磁反り磁蓋, 19c 前半		202109 000262
191	図版16	SK73	磁器	墨口	-	(5.0)	(4.2)	染付	二重線跡・矢羽		圓線			202109 000261
192	図版16	SK73	磁器	南香	6.7	3.4	5.5	灰・黒						202109 000263
193	図版16	SK73	複製品	瓦葺	直径 (2.4)	0.1						1.4g, 裏水透定		202109 000463
194	図版16	SK73	複製品	瓦葺	直径 2.4	0.1						2.8g		202109 000464
195	図版16	SK73	複製品	瓦葺	直径 2.4	0.1						3.5g, 裏水透定		202109 000462
196	図版16	SK74	磁器	碗	11.4	4.2	6.0	染付			二重線跡・五弁花	砂粒付着	ごんにゃく印判, くらわん か手, 18c 後半	202109 000264
197	図版16	SK74	磁器	皿	-	3.9	(2.0)	染付		草花		砂付着	17c	202109 000268
198	図版16	SK74	磁器	皿	(14.4)	(8.0)	2.9	染付		二重線跡・草花	藍ノ目輪跡・ 五弁花		ごんにゃく印判, 18c	202109 000269
199	図版16	SK74	磁器	猪口	(8.0)	(3.8)	5.6	染付	圓線・岩・柳		二重線跡			202109 000266
200	図版16	SK74	石製品	砥石	(8.5)	5.9	1.1	に青い 黄色					86.1 g	202109 000271
201	図版16	SK74	瓦	軒丸瓦	瓦当径 112cm	2.0		オリーブ 黄色	三巴・星9点					202109 000270
202	図版16	SK74	複製品	鉢	(9.6)	(7.1)	0.2					2.4g		202109 000462
203	図版16	SK75	磁器	碗	(9.8)	-	(4.7)	染付	青磁	四方準		1皿		202109 000274
204	図版16	SK75	磁器	碗	-	(4.4)	(3.6)	染付	花洒草			18c 前半		202109 000273
205	図版16	SK76	磁器	碗	(7.0)	-	(4.7)	染付	写輪	二重線跡		18c 後半～末		202109 000275
206	図版16	SK76	磁器	鉢	(12.4)	6.2	5.4	染付	帯・輪郭	輪郭・不明			輪花, 19c	202109 000276
207	図版16	SK77	磁器	碗	(7.4)	3.3	4.0	染付	圓線・二重格子		圓線	19c		202109 000277
208	図版17	SK77	磁器	碗	(6.8)	-	(4.6)	染付	山水・東屋	紺文		19c		202109 000278
209	図版17	SK77	磁器	皿	-	(12.0)	(2.0)	染付	連弁・不明	松竹梅	ハリ痕	部跡き		202109 000281
210	図版17	SK77	磁器	鉢	17.0	7.9	8.1	染付	吹き墨・写輪	二重線跡・吹き墨・ 写輪			内縁, 18c 末～19c	202109 000284
211	図版17	SK77	磁器	瓶	1.9	(3.6)	10.1	染付	朝雲草・圓線・露 筋文	工藤部のみ写輪			19c	202109 000283
212	図版17	SK77	磁器	仏瓶	7.0	4.0	5.5	染付	圓線・格子・波			18c 末		202109 000286
213	図版17	SK81	磁器	碗	9.0	-	(3.7)	染付	富士			ごんにゃく印判, 18c 前半		202109 000282
214	図版17	SK81	磁器	碗	(7.6)	-	(3.1)	染付	雲			ごんにゃく印判, 18c 前半		202109 000293
215	図版17	SK81	磁器	蓋	(7.6)	(2.8)	3.6	染付	雲文	圓線・二重線跡		二重線跡		202109 000292

第 10 表 久留米城下町道跡第 30 次調査 出土遺物観察表 6

遺物 番号	図号 番号	遺構	材質	器種	重量			染付 施す 色数	裝飾・調整		見込み	産地・高台内印誌	備考	登録 番号
					口径 (最)	底径 (最)	器高 (最)		外周	内周				
216	図版17-SK81	磁器	火入	碗	8(6)	3.2	4.5	青磁		口縁部のみ染付			202109 000299	
217	図版17-SK81	陶器	碗	碗	8(8)	3.5	6.6	灰	不明			京焼風	202109 000300	
218	図版17-SK81	石製品	砥石	砥石	9(3)	4.8	2.3	にぶ、黄 褐色				137.2g、使用痕・被熱痕 あり	202109 000301	
219	図版17-SK81	製製品	銭貨	銭貨	直径2.4		0.1					3.7g	202109 000467	
220	図版17-SP2	陶器	沓形 徳利	徳利	-	24.0	(31.1)	灰	ナナ	ナナ			202109 000467	
221	図版17-SP2	瓦	枕瓦	瓦	27.2	26.5	1.7	暗灰色					202109 000006	
222	図版17-SP51	磁器	湯呑	湯呑	7(9)	3.8	4.3	染付	二重圓線・幾何学 草・蓮弁	二重圓線・四方禰		19c	202109 000149	
223	図版17-SP51	製製品	銭貨	銭貨	直径2.4		0.1					0.4g	202109 000449	
224	図版17-SP55	製製品	把手	把手	2.7	2.2	0.2					6.6g	202109 000451	
225	図版17-SP90	石製品	砥	砥	13(4)	5.9	2.1	にぶ、黄 褐色				284.4g	202109 000291	
226	図版17-SX7	磁器	碗	碗	-	-	(1.4)	染付					202109 001453	
227	図版17-SX21	磁器	碗	碗	11.2	4.4	6.0	染付	圓線・草花			圓線・二重圓線・ 変形字	202109 000037	
228	図版17-SX21	磁器	碗	碗	-	(4.5)	(3.2)	染付	圓線・五葉若葉			二重圓線	202109 000036	
229	図版17-SX21	磁器	碗	碗	9.8	3.9	5.6	染付	圓線・松竹梅			二重圓線・変形字	202109 000043	
230	図版17-SX21	磁器	碗	碗	9.9	4.0	5.1	染付	圓線・二重圓口	圓口		二重圓線・菊	202109 000044	
231	図版17-SX21	磁器	碗	碗	-	(3.6)	(1.6)	染付	青磁			二重圓線・五弁花	202109 000045	
232	図版17-SX21	磁器	皿	皿	-	(10.2)	(1.1)	染付	二重圓線	文様手・花・右短文・ 四方禰			202109 000038	
233	図版17-SX21	磁器	皿	皿	(10.4)	-	(2.2)	染付	二重斜格子			乾ノ目輪割子・ 二重圓線	202109 000035	
234	図版17-SX21	磁器	皿	皿	-	(8.5)	(2.4)	染付	梅			砂粒付着	202109 000036	
235	図版17-SX21	磁器	瓶	瓶	-	5.8	(10.6)	染付	蓮弁・変形袴	露胎		砂粒付着	202109 000040	
236	図版17-SX21	陶器	碗	碗	(12.3)	(4.2)	(4.5)	灰				露胎	202109 000041	
237	図版17-SX21	陶器	碗	碗	-	(5.2)	(1.9)	灰				砂目	202109 000038	
238	図版17-SX21	陶器	鉢	鉢	-	-	(4.3)	灰		蓮弁			202109 000039	
239	図版17-SX21	陶器	火入	火入	(10.5)	(4.2)	5.6	褐	回転ナナ	回転ナナ・一部染 付			202109 000037	
240	図版17-SX21	土師器	人形	人形	(4.2)	(3.2)	(2.3)	黄褐色					202109 000147	
241	図版17-SX21	石製品	砥石	砥石	6.6	3.7	0.4	灰黄色					202109 000145	

第 11 表 久留米城下町遺跡第 30 次調査 鍛冶関連遺物観察表 1

遺物 番号	印記番号	遺構	材質	器種	寸法 (cm・寸)				備考	登録番号
					長	幅	厚	質量		
242	図版 17	SE11	鉄洋	杓形洋	7.6	5.8	2.7	102.3		202109000318
243	図版 18	SE20	鉄洋	杓形洋	8.2	5.5	3.5	121.1		202109000346
244	図版 18	SE20	鉄洋	杓形洋	10.3	5.6	3.0	193.6		202109000347
245	図版 18	SE20	鉄洋	杓形洋	(6.7)	(5.0)	1.7	194.4		202109000348
246	図版 18	SE20	鉄洋	鉄洋	5.5	5.3	0.8	74.1		202109000337
247	図版 18	SE20	鉄製品	釘	7.7	1.6	1.7	17.4		202109000338
248	図版 18	SE20	鉄製品	刀子	(7.6)	1.6	0.6	14.7		202109000343
249	図版 18	SE20	鉄製品	鉄片	6.1	4.2	0.8	28.9		202109000345
250	図版 18	SE34	鉄洋	杓形洋	5.9	5.0	3.2	107.2		202109000394
251	図版 18	SE34	鉄製品	鎌	(10倍)	2.3	0.8	90.4		202109000397
252	第 17 図・図版 18	SE53	鉄洋	杓形洋	11.9	10.1	4.9	389.5		202109000428
253	図版 18	SE53	鉄洋	杓形洋	7.2	4.1	1.9	60.9		202109000980
254	図版 18	SE53	鉄洋	杓形洋	4.7	4.9	2.1	51.8		202109000981
255	図版 18	SE53	鉄洋	杓形洋	6.5	6.4	2.0	147.0		202109001017
256	図版 18	SE53	鉄洋	杓形洋	6.4	5.4	1.2	61.8		202109001160
257	図版 18	SE53	鉄製品	釘	6.7	1.0	1.0	14.2		202109000430
258	図版 18	SE53	鉄製品	釘	3.2	0.7	0.7	2.5		202109000433
259	第 17 図・図版 18	SE53	鉄製品	包丁	15.3	4.0	0.8	89.5		202109000427
260	図版 18	SK3	鉄洋	杓形洋	8.1	5.8	2.3	89.3		202109000303
261	図版 18	SK4	鉄洋	杓形洋	6.0	5.3	3.0	134.5		202109000304
262	図版 18	SK4	鉄製品	釘	4.3	0.8	0.7	3.0		202109000306
263	第 17 図・図版 18	SK4	鉄製品	釘	6.2	0.9	0.9	6.7		202109000308
264	図版 18	SK14	鉄洋	杓形洋	7.3	5.7	3.6	123.0		202109000321
265	図版 18	SK15	鉄洋	精錬銅治洋	5.3	3.4	1.6	28.8		202109000334
266	図版 18	SK15	鉄製品	釘	3.8	1.1	0.4	3.1		202109000328
267	第 17 図・図版 18	SK15	鉄製品	毛版	8.3	1.7	0.3	18.3		202109000322
268	図版 18	SK17	鉄洋	杓形洋	4.2	4.9	2.0	60.3		202109000538
269	図版 18	SK17	鉄洋	杓形洋	6.2	5.4	2.1	78.5		202109000335
270	図版 18	SK17	鉄洋	精錬銅治洋	4.3	3.5	1.4	21.5		202109000535
271	図版 18	SK17	鉄洋	鉄洋	4.3	4.2	1.7	41.6		202109000336
272	図版 18	SK28	鉄洋	杓形洋	7.9	6.1	2.8	115.3		202109000610
273	図版 18	SK30	鉄洋	杓形洋	7.7	(5.3)	2.4	155.2		202109000351
274	図版 18	SK30	鉄洋	杓形洋	8.8	7.9	2.8	200.5		202109000352
275	図版 18	SK30	鉄洋	杓形洋	6.7	5.4	1.7	76.8		202109000354
276	図版 18	SK30	鉄洋	杓形洋	7.3	5.3	1.9	104.3		202109000355
277	図版 18	SK30	鉄洋	精錬銅治洋	6.1	5.4	4.2	57.2		202109000362
278	図版 19	SK30	鉄洋	精錬銅治洋	6.7	3.7	1.6	40.8		202109000629
279	図版 19	SK30	鉄洋	精錬銅治洋	6.0	4.6	1.6	45.7		202109000630
280	第 17 図・図版 19	SK30	鉄洋	精錬銅治洋	8.8	7.75	4.3	115.3		202109000353
281	図版 19	SK30	鉄製品	鉄塊系遺物	6.1	2.7	2.4	63.0		202109000676
282	図版 19	SK30	鉄製品	釘	8.4	0.5	0.5	6.9		202109000356
283	図版 19	SK30	鉄製品	釘	2.9	0.7	0.6	2.6		202109000359
284	図版 19	SK32	鉄洋	杓形洋	10.5	7.8	4.1	346.0		202109000366
285	図版 19	SK32	鉄洋	杓形洋	(8.7)	(5.6)	2.4	142.0		202109000378
286	図版 19	SK32	鉄洋	杓形洋	(6.9)	(6.6)	3.8	177.5		202109000380
287	図版 19	SK32	鉄洋	杓形洋	8.7	7.4	2.9	226.5		202109000387
288	図版 19	SK32	鉄洋	杓形洋	5.9	3.7	1.5	38.0		202109000712
289	図版 19	SK32	鉄洋	杓形洋	5.4	4.5	1.3	35.5		202109000713
290	図版 19	SK32	鉄洋	杓形洋	4.9	3.7	2.0	43.1		202109000746
291	図版 19	SK32	鉄洋	杓形洋	6.4	5.2	3.2	82.9		202109000772
292	第 17 図・図版 19	SK32	鉄洋	精錬銅治洋	5.3	3.2	2.3	27.5		202109000716
293	図版 19	SK32	鉄洋	精錬銅治洋	4.5	3.5	1.3	46.4		202109000745

第 12 表 久留米城下町遺跡第 30 次調査 鍛冶関連遺物観察表 2

遺物 番号	印記番号	遺構	材質	器種	寸法 (cm・g)			備考	登録番号
					長	幅	厚		
294	図版 19	SK32	鉄洋	精練銅治洋	8.3	4.7	2.5	85.0	202109000773
295	第 17 図・図版 19	SK32	鉄洋	精練銅治洋	5.9	5.8	2.7	42.7	202109000774
296	図版 19	SK32	鉄洋	鉄洋	4.1	4.0	2.9	60.2	202109000367
297	図版 19	SK32	鉄洋	鉄塊系遺物	10.8	9.0	3.3	457.0	202109000379
298	図版 19	SK32	鉄製品	釘	4.2	0.8	1.0	5.3	202109000371
299	図版 19	SK32	鉄製品	釘	5.0	1.0	0.6	8.1	202109000389
300	図版 19	SK32	鉄製品	包丁	7.9	4.0	0.9	56.0	202109000369
301	図版 19	SK32	鉄製品	包丁	(8.6)	4.8	0.5	46.8	202109000393
302	第 17 図・図版 19	SK32	鉄製品	鏝	5.8	3.3	0.7	14.0	202109000373
303	第 17 図・図版 19	SK32	鉄製品	鏝	(8.9)	3.2	0.4	22.3	202109000391
304	図版 19	SK32	鉄製品	鏝	(7.2)	2.5	0.3	17.2	202109000392
305	図版 19	SK39	鉄洋	杓形洋	7.1	6.5	2.6	139.9	202109000398
306	図版 19	SK39	鉄洋	杓形洋	5.2	4.5	3.3	52.6	202109000814
307	図版 19	SK39	鉄洋	精練銅治洋	6.2	4.7	1.9	71.8	202109000399
308	図版 19	SK39	鉄製品	釘	6.0	1.0	0.5	6.7	202109000402
309	図版 19	SK40	鉄洋	杓形洋	5.3	3.8	2.6	47.3	202109000844
310	図版 19	SK40	鉄洋	鉄洋	6.4	4.8	2.9	90.5	202109000406
311	図版 20	SK42	鉄洋	杓形洋	7.8	5.0	3.7	110.7	202109000408
312	図版 20	SK42	鉄洋	杓形洋	5.7	6.0	1.5	71.5	202109000688
313	図版 20	SK42	鉄洋	精練銅治洋	4.5	2.9	2.5	38.9	202109000876
314	図版 20	SK44	鉄洋	杓形洋	8.1	6.4	2.9	166.6	202109000411
315	図版 20	SK44	鉄洋	杓形洋	5.4	3.9	2.2	37.9	202109000898
316	図版 20	SK46	鉄洋	杓形洋	10.3	8.4	3.3	323.5	202109000412
317	図版 20	SK46	鉄洋	杓形洋	8.3	7.5	2.5	128.0	202109000413
318	図版 20	SK46	鉄洋	精練銅治洋	5.4	4.5	2.2	51.0	202109000923
319	図版 20	SK46	鉄製品	釘	6.7	1.3	0.9	15.7	202109000415
320	第 17 図・図版 20	SK48	土製品	須口	-	-	(3.6)	-	202109001452
321	第 17 図・図版 20	SK48	土製品	須口	-	-	(2.2)	-	202109001453
322	図版 20	SK52	鉄洋	杓形洋	7.0	5.2	4.1	148.0	202109000426
323	図版 20	SK52	鉄洋	杓形洋	(5.3)	(5.3)	2.4	98.5	202109000468
324	図版 20	SK52	鉄洋	精練銅治洋	5.0	3.2	1.9	38.1	202109001225
325	図版 20	SK54	鉄製品	包丁?	(18.8)	3.3	0.1	211.2	202109000434
326	図版 20	SK56	鉄製品	釘	3.6	0.4	1.3	1.9	202109000437
327	図版 20	SK56	鉄洋	精練銅治洋	8.9	5.9	0.7	103.8	202109000438
328	図版 20	SK56	鉄製品	釘	5.3	0.7	4.7	5.0	202109000439
329	図版 20	SK64	鉄洋	杓形洋	7.5	5.0	3.1	117.5	202109001304
330	図版 20	SK70	鉄洋	杓形洋	9.0	(4.6)	1.9	196.4	202109000442
331	図版 20	SK72	鉄洋	杓形洋	6.5	5.1	2.7	126.5	202109001354
332	図版 20	SK74	鉄洋	杓形洋	8.1	5.9	3.7	168.6	202109000443
333	図版 20	SK76	鉄洋	精練銅治洋	5.6	4.3	2.0	46.5	202109001410
334	図版 20	SK76	鉄洋	鉄洋	6.3	(4.5)	1.0	148.9	202109000445
335	図版 20	SK81	鉄製品	釘	8.6	1.3	0.1	27.1	202109000446
336	図版 20	SP27	鉄洋	杓形洋	6.1	5.1	1.6	59.1	202109000604
337	図版 20	SP27	鉄洋	精練銅治洋	5.1	2.5	1.0	27.8	202109000605
338	図版 20	SP60	鉄洋	杓形洋	8.6	6.6	2.8	218.4	202109001274
339	図版 20	SP68	鉄製品	鉄塊系遺物	6.2	6.0	4.0	387.5	202109000441
340	第 17 図・図版 20	SK7	鉄洋	精練銅治洋	6.8	5.5	2.75	70.8	202109000317
341	図版 20	SK7	鉄洋	精練銅治洋	6.1	4.9	3.1	74.4	202109000491
342	図版 20	SK21	鉄洋	杓形洋	6.9	5.3	2.7	131.7	202109000349
343	図版 20	SK21	鉄洋	杓形洋	7.0	5.4	2.9	125.4	202109000350
344	図版 20	SK21	鉄洋	杓形洋	6.0	4.2	2.0	61.1	202109000588

圖 版



(1) 十間屋敷遺跡第11次調査 調査区東側全景（北上空から）



(2) 十間屋敷遺跡第11次調査 調査区西側全景（東から）

図版 2



(1) S D 7 土層断面 (南から)



(2) S D 13 土層断面 (西から)



(3) S D 13・47 土層断面 (北から)



(4) トレンチ土層断面 (北から)



(5) S E 18 検出状況 (東から)



(6) S K 12 土層断面 (西から)



(7) S K 17 土層断面 (南西から)



(8) 欹状遺構完掘状況 (北から)



図版 4



(1) 久留米城下町遺跡第30次調査 西区全景(東上空から)



(2) 久留米城下町遺跡第30次調査 東区全景(西上空から)



(1) SE 11 掘削状況 (北から)



(2) SE 20 土層断面 (南から)



(3) SE 53 土層断面 (南から)



(4) SK 1 土層断面 (南西から)



(5) SK 3 土層断面 (東から)



(6) SK 3 完掘状況 (北西から)



(7) SK 4 完掘状況 (北西から)



(8) SK 14 土層断面 (南西から)

図版 6



(1) S K 17 完掘状況 (西から)



(2) S K 19 土層断面 (南から)



(3) S K 29 完掘状況 (北西から)



(4) S K 30 土層断面 (西から)



(5) S K 30 完掘状況・S E 34 掘削状況 (北西から)



(6) S K 32 土層断面 (東から)



(7) S K 35・37 完掘状況 (東から)



(8) S K 39 完掘状況 (南西から)



(1) S K 42 完掘状況 (南から)



(2) S K 44 完掘状況 (南から)



(3) S K 48 土層断面 (南から)



(4) S K 49 完掘状況 (北西から)



(5) S K 52 土層断面 (南から)



(6) S K 54 土層断面 (西から)



(7) S K 54 遺物出土状況 (北から)



(8) S K 56 土層断面 (南から)

図版 8



(1) S K 56 完掘状況 (南西から)



(2) S K 58 完掘状況 (北西から)



(3) S K 63 土層断面 (南から)



(4) S K 64 完掘状況 (北から)



(5) S K 70 土層断面 (西から)



(6) S K 72 完掘状況 (東から)



(7) S K 73 完掘状況 (北から)



(8) S K 74 完掘状況 (北から)



(1) SK 75 完掘状況 (南から)



(2) SK 81 掘削状況 (東から)



(3) SP 2 出土状況 (南から)



(4) SP 50 出土状況 (北西から)



(5) SP 55 出土状況 (北東から)



(6) SX 7 南側土層断面 (西から)



(7) SX 7 (北西から)



(8) SX 7 一部分 (東から)

図版 10



(1) S X 7 完掘状況 (南から)



(2) S X 21 土層断面 (南東から)



(3) S X 21 土層断面 (東から)



(4) S X 21 土層断面 (南から)



(5) S X 21 土層断面 (西から)



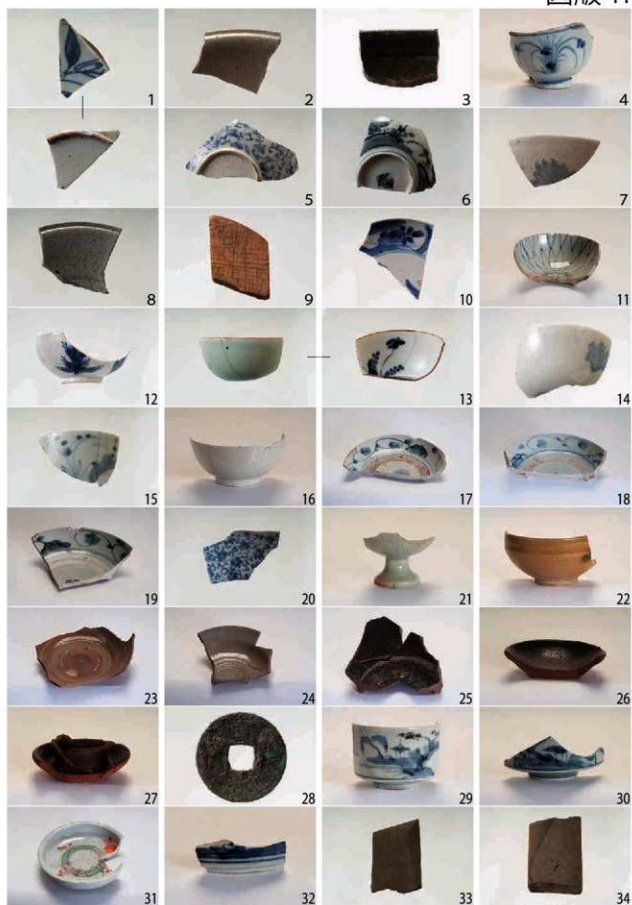
(6) S X 21 土層断面 (北から)



(7) S X 21 如検出状況 (南東から)



(8) S X 21 完掘状況 (南東から)



图版 12





図版 14





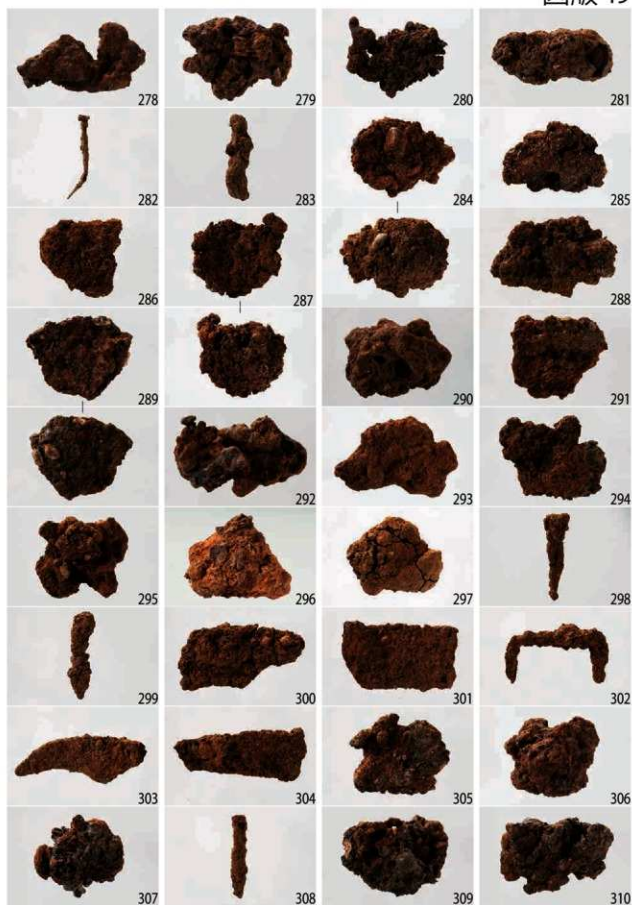
図版 16



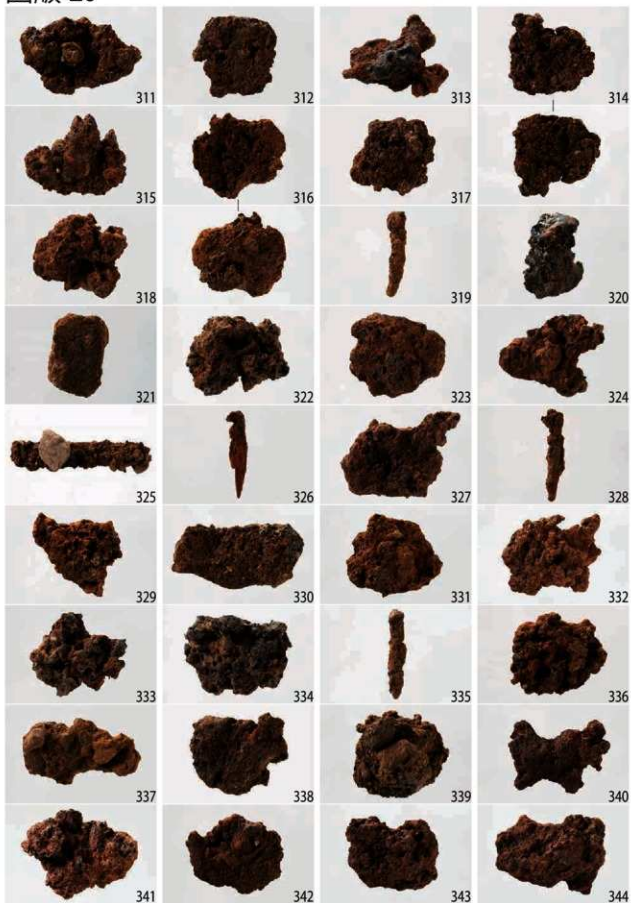


図版 18





図版 20





(1) S K 48 出土铁滓·羽口·粒状滓·鍛造剥片·石炭



(2) S K 14 出土石炭



(3) S K 48 出土石炭



(4) S K 48 出土粒状滓



(5) S K 48 出土鍛造剥片

報告書抄録

ふりがな	じっけんやしきいせきーだい11じちようさー くるめじようかまちいせきーだい30じちようさー							
書名	十間屋敷遺跡ー第11次調査ー 久留米城下町遺跡 ー第30次調査ー							
シリーズ名	久留米市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第443集							
編著者名	長谷川 桃子							
編集期間	久留米市市民文化財文化財保護課							
所在地	〒830-8520 福岡県久留米市城南町15番地3 TEL:0942-30-9225 FAX:0942-30-9714 Email:bunkazai@city.kurume.lg.jp							
発行年月日	2023(令和5)年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
十間屋敷遺跡 第11次調査	福岡県久留米市日吉町28 ー12,ー14,ー15,ー16, ー17,ー18	40203	031200	33° 18' 55"	130° 31' 06"	20210419 ～ 20210522	265㎡	記録保存調査
所収遺跡名	種別	時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
十間屋敷遺跡 第11次調査	集落	近世	溝 井戸 土坑 竝状遺構 ビット		4条 1基 5基 多数 多数		近世陶磁器、金属器など 久留米藩家老 有馬主膳中屋 敷の調査	
要約								
調査地は、久留米藩家老有馬主膳の中屋敷にあたる。溝は18世紀前半から幕末まで機能したと考えられる。竝状遺構が調査区西側で広がることや、遺構の広がりが希薄であることから、調査地周辺は空地として広がっていた可能性が高い。								
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
久留米城下町遺跡 第30次調査	福岡県久留米市通町104 ー20,ー21	40203	031132	33° 18' 56"	130° 31' 06"	20210522 ～ 20210716	139㎡	記録保存調査
所収遺跡名	種別	時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
久留米城下町遺跡 第30次調査	集落	近世	井戸 土坑 鍛冶炉 ビット		4基 48基 2基 多数		近世陶磁器、ガラス製品、 鉄洋、金属器、石炭など 鍛冶屋の調査	
要約								
17世紀から19世紀の鍛冶屋を調査した。鍛冶炉と鍛冶関連遺物の検討から、精錬鍛冶・鍛錬鍛冶・低温鍛錬鍛冶・高温鍛錬鍛冶の4種の工程が考えられる。精錬鍛冶滓や焼形滓の出土量から17世紀後半が本格的な操業であり、18世紀後半にピークを迎えたと推測される。また、石炭が近世の鍛冶に使用された可能性がある。								
土木工事の届出日	令和2年9月29日			遺物の発見通知日		令和3年7月21日 (3文財第1046号)		

<p>十間屋敷遺跡 ー第11次発掘調査報告ー 久留米城下町遺跡 ー第30次発掘調査報告ー 久留米市文化財調査報告書 第443集 令和5年3月31日</p> <p>発行 久留米市教育委員会 編集 久留米市市民文化財文化財保護課 印刷 中村印刷株式会社 久留米市梅沢町972</p>
